

調布市民の公営プールに関する アンケート調査等報告書

令和 7 年 10 月

調布市

目 次

1. 調布市民の公営プールに関するアンケート調査	3
(1) 調査計画	3
(2) 調査実施期間.....	5
(3) 回収結果及び回答者の基本属性	6
(4) 調査結果の概要.....	10
(5) アンケートの総括.....	35
 2. 団体ヒアリング調査	 37
(1) 調査概要	37
(2) ヒアリング調査の実施	38
(3) ヒアリング調査の実施結果	38
(4) 団体ヒアリング調査結果の概要(総括)	45

1. 調布市民の公営プールに関するアンケート調査

(1) 調査計画

1) 調査の目的

本調査は、調布市民プールや市内の他の公営プールについて、利用者(受益者)である市民の利用状況や満足度、意向・要望等を直接把握し、今後の調布市民プールのあり方を検討するための基礎資料を得ることを目的に行いました。

2) 調査地域

調布市全域

3) 調査対象者

市内在住の16歳以上の市民と小学生・中学生を対象としました。

16歳以上の市民： 住民基本台帳から無作為抽出した市民3,061人(3,000人を基本としつつ、宛先不明等による差戻しを考慮して多めに送付)

小・中学生： 市内の公立小中学校(小学校20校、中学校8校)の小学校3年生、6年生と中学校2年生の全児童・生徒計5,183人

表1 アンケートの調査対象者

区 分		対象者数	
16歳以上の市民		3,061人	
小・中学生	小学校 3年生	1,874人※	5,183人
	小学校 6年生	1,861人※	
	中学校 2年生	1,448人※	

※児童・生徒数：令和6年5月1日現在の通常学級の生徒数

4) 調査方法

16歳以上の市民

- ・ 郵送による配布・回収を基本としつつ、回答者の利便性を考慮し、郵送した調査票に記載する二次元コードからWEBフォームにアクセスしての回答も受け付けました。
- ・ 回答の前提となる最低限の予備知識を揃えるため、公営プールを取り巻く状況について概説する資料を1枚添付しました。(次ページ参照)

小・中学生

- ・ 教育委員会を通じて各学校にWEBフォームの二次元コードを配布し、回答を依頼しました。

調布市内の公営プールに関するアンケート調査のお願い

市が運営する「調布市民プール」では、令和5年10月に行った施設点検の際に50メートルプールの水位が低下する事象が確認されました。これを受け、施設全体の劣化度を確認する調査を行った結果、施設の大きな劣化が確認されました。

こうした施設全体の改修・更新のほか、近年の気候変動による猛暑日の増加など、屋外プールをめぐる環境の変化に伴う様々な課題もあります。このような状況を総合的に勘案し、令和7年度以降、当面の間は市民プールの開設を中止することとし、検討委員会を立ち上げ、今後の市民プールのあり方について検討を進めています。

こうした検討に当たり、市民の皆様の公営プールに関する利用状況やニーズなどを把握・分析するため、無作為に抽出した16歳以上の市民3,000名を対象に、「調布市内の公営プールに関するアンケート調査」を実施します。お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

アンケート回答に関するお願い

- ① アンケートはできるだけご本人がご回答ください。ただし、お一人で回答が難しいものは、ご家族と相談してご回答ください。
- ② アンケート票へのご記入は、鉛筆、ボールペン等ではっきりとお書きください。WEBからご回答される方はアンケートの途中保存ができないため、**落ち着いて入力できる環境**にてお答えください。回答時間は**約5分～10分程度**です。

※アンケートは無記名方式で行い、統計的に処理いたします。目的以外に使用

アンケートの返送方法

返送方法は、回答用紙への記入後に同封の返信用封筒に入れてご返送いただくか、Webからの回答が可能です。（**どちらか一方の方法で**ご返送ください）



1. 郵送の場合

お手数ですが、記入後の回答用紙を同封の返信用封筒に入手は不要です。



2. Webの場合

スマートフォン等から、右の2次元コードを読み取るとアンケートが表示されます。表示される設問に従って、ご回答ください。
郵送：当日消印有効
WEB：当日23時まで

回答期限 **令和7年 7月 25日(金)**

■ お問い合わせ先

調布市 生活文化スポーツ部 スポーツ振興課

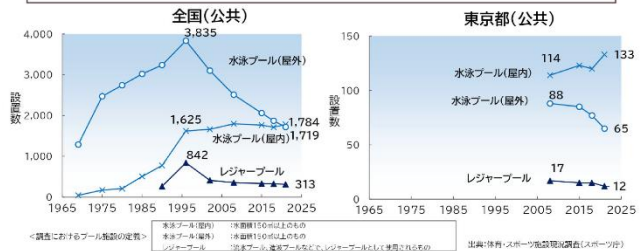
メールアドレス:sports@city.chofu.lg.jp

☎電話

(参考)公営プールを取り巻く現状

1 公営プールの設置数の推移はどうなっているの？

日本では1970年代以降、レジャープールの定着や第二バブーーム世代の増加を背景として、主に子どもや家族をターゲットとした公営プール(主に屋外)が全国で次々と整備されました。その後、1980年代からスイミングスクールやスポーツクラブ等の民間プール(主に屋内)が各地で整備されるとともに、夏季のみしか利用できない屋外プールの需要を奪い、そしてバブル崩壊やレジャーの多様化、さらに猛暑やゲリラ豪雨など異常気象の増加もあり利用者が減少し、自治体の財政難も相まって減少の一途をたどっています。



2 調布市内にはどのような公営プールがあるの？

調布市内には、市営プールとして①市民プール、②総合体育館屋内プールがあります。また、市立小学校では、③調和小学校に屋内プールが整備され、市民開放で一般利用されています。このほか、都立施設として、④京王アリーナTOKYO(武蔵野の森総合スポーツプラザ)屋内プールがあります。

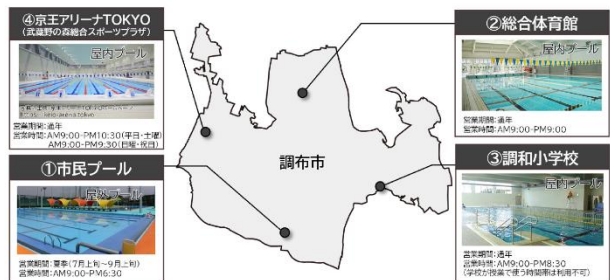


図 1 市民アンケートに付けた説明資料

5) アンケート設問項目

回答者の負担感も考慮して設問数は概ね 5～10 分程度で回答できる程度とし、以下の設問項目としました。

表 2 アンケート設問項目

1) 調布市内公営プール施設の利用状況, 認知状況		
設問①	調布市内にあるこれらの公営プールを利用したことがありますか。	選択式
2) 直近3年間のプール施設の利用状況		
設問②	直近の3年程度(コロナ禍後)の期間でプール施設(屋内・屋外,市内・市外,公営・民間を問わず)を利用したことがありますか。	選択式
設問③	設問②で「(直近の3年程度の期間で)利用したことがある」と回答した方へ以下の設問。 (1)利用したことがある施設 (2)主な利用目的 (3)施設を選んだ主な理由	選択式 複数選択式
3) 直近3年間でプール施設を利用しなかった理由		
設問④	設問②で「(直近の3年程度の期間で)利用したことがない」と回答した理由。	複数選択式
4) 公営プールの役割に対する期待		
設問⑤	公営プールの役割として期待することは何ですか。	選択式
5) 自由意見		
設問⑥	調布市の公営プール(市民プール, 総合体育館プール, 調布小学校屋内プール)に対する意見や要望など。	自由記述
6) (16歳以上の市民の場合)回答者の属性		
設問⑦	年齢(年代)	選択式
設問⑧	現在一緒に住んでいる家族	複数選択式
設問⑨	お住まいの町名	選択式
6) (16歳未満の市民の場合)回答者の属性		
設問⑦	学年	選択式
設問⑧	学校名	複数選択式
設問⑨	お住まいの町名	選択式

(2) 調査実施期間

16歳以上の市民: 令和7年7月7日(月)～7月25日(金)

小・中学生: 令和7年7月10日(木)～7月25日(金)

(3) 回収結果及び回答者の基本属性

1) 回答数, 回収率

16 歳以上の市民の回答は, 返信用封筒での紙での回答と2次元コードを読み取る WEB フォームからの回答の2つの方法で回収し, 有効回答数 1,075 件, 有効回収率 35%でした。

小・中学生の回答は, WEB フォームのみから回収を行い, 有効回答数 2,963 件, 有効回収率 57%でした。

表 3 有効回答数と有効回収率

対象者	配布数 a	紙回答数 b	WEB回答数 c	有効回答数計 b+c	有効回収率 (b+c)/a
① 16 歳以上の市民	3,061	688	387	1,075	35%
② 小・中学生	5,183	—	2,963	2,963	57%
小学校 3 年生	(1,874)	—	836	836	45%
小学校 6 年生	(1,861)	—	1,226	1,226	66%
中学校 2 年生	(1,448)	—	901	901	62%

2) 標本誤差

本アンケート調査は, 母集団の中から, 無作為抽出した方を対象に実施した標本調査です。

標本誤差は, 仮に母集団を対象に調査を実施した場合の結果と, 標本調査で実施した結果の値との間で想定される差を意味します。

本アンケート調査では, 標本誤差が最大でも「16歳以上の市民」が 3.0%, 「小・中学生」が 1.7%となり, 許容できる標本誤差の範囲である5%未満に収まるため, 母集団に対し妥当な標本データ数を得ることができたといえます。

(参考)

$$\text{標本誤差} = \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{p(1-p)}{n}} \times 1.96$$

項目	値		備考
	16歳以上の市民	小・中学生	
N	210,365	30,244※	母集団数(調布市人口/令和7年7月1日 住民基本台帳) ※「小・中学生」の母集団数は 15 歳以下の人口
n	1,075	2,963	サンプルサイズ(有効回答数)
信頼度	95%		サンプルが母集団を代表する率。通常は 95%, 定数 1.96
p	0.5		通常は, 誤差が最も大きくなる 50%(0.5)を用いる
標本誤差	3.0%	1.7%	上記の式から算出した値。5%以内が目安

3) 居住地の状況

居住地別の回答数を図 3 及び図 4 に示します。

下図に示す西部, 北部, 南部, 東部の地域に分けて集計・分析しました。

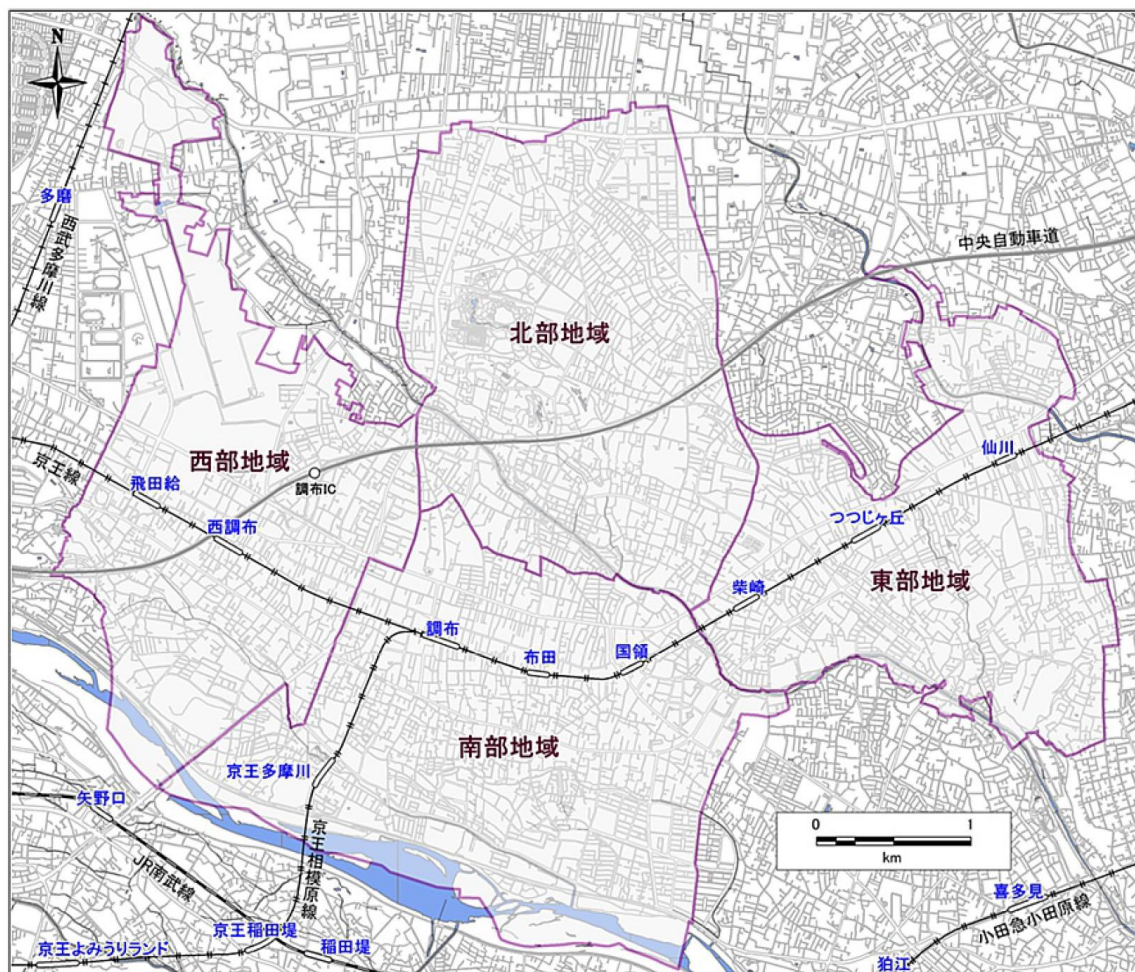


図 2 地域の分割範囲

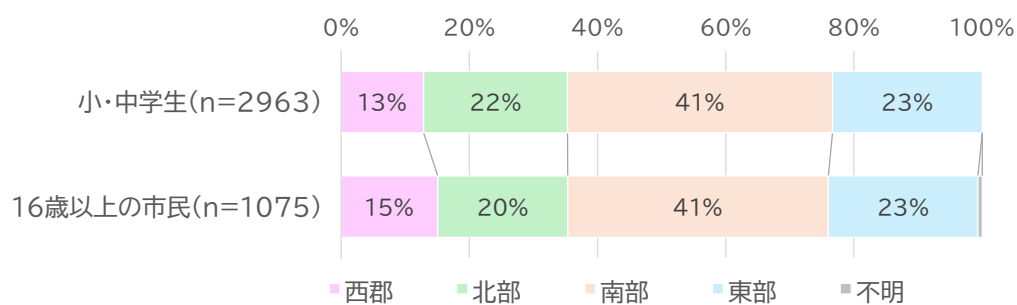


図 3 回答数の地域別構成割合

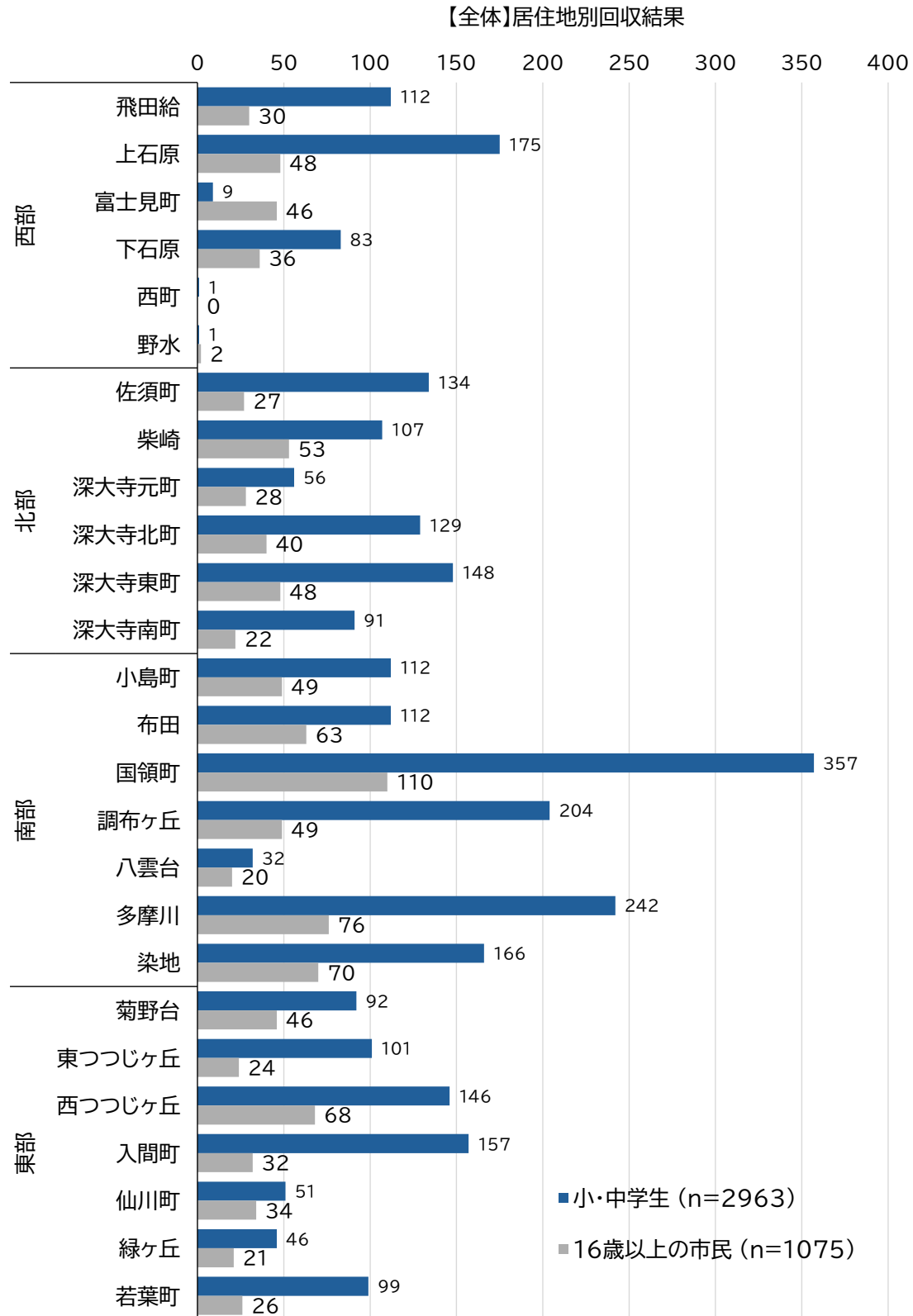


図 4 居住地別の回答数

4) 年代の状況

表 4 年代別(詳細)の回答数

	回答数	構成割合
小・中学生	2963	—
16歳以上	1,075	100%
16～19 歳	23	2%
20～29 歳	79	7%
30～39 歳	138	13%
40～49 歳	169	16%
50～59 歳	210	20%
60～69 歳	169	16%
70 歳以上	278	26%
無回答	9	1%

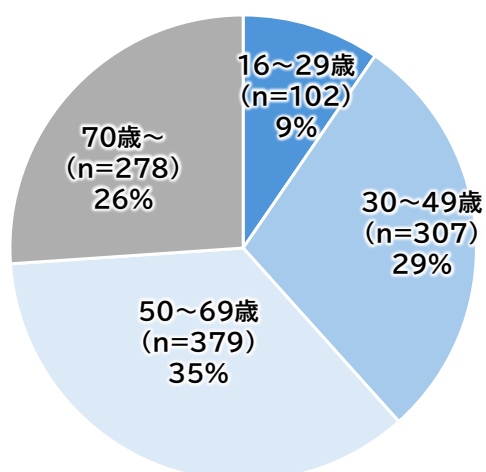


図 5 回答者の年代(統合)の割合 (対象:16歳以上の市民)

5) 同居家族の状況

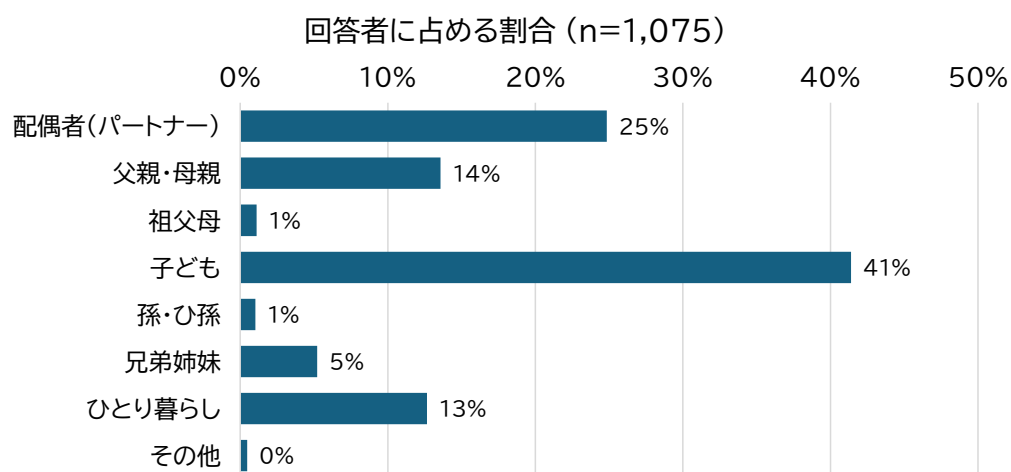


図 6 回答者の同居家族の状況(対象:16歳以上の市民)

(4) 調査結果の概要

1) 調布市内公営プール施設の利用状況、認知状況

設問①

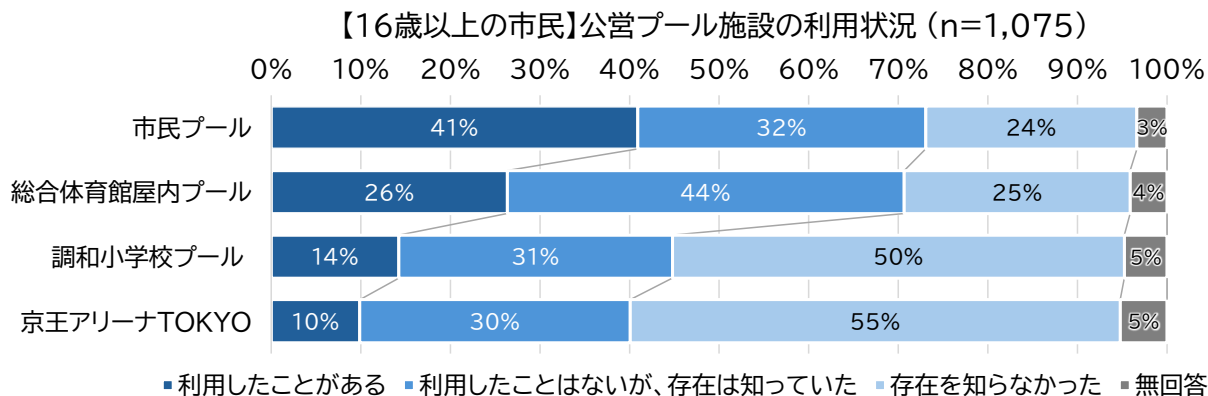
調布市内にある公営プール(市民プール, 総合体育館屋内プール, 調和小学校屋内プール, 京王アリーナTOKYO)を利用したことがありますか。

調布市内の公営プールの利用状況等を質問する前に, そもそも施設の存在が認知されていない可能性もあると考え, 施設の認知度について質問しました。

- 16歳以上の市民, 小・中学生ともに, 「利用したことがある」の割合が最も多いのが市民プールでした。年代別の傾向を見ると, 市民プールは小・中学生から 70 歳以上まで, 全世代で3～5割が「利用したことがある」と回答しています。居住地別の傾向を見ても, 市民プールは特に小・中学生は地域によらず「利用したことがある」が5割前後あります。他の3施設に比べ, 「存在を知らなかった」の回答割合も少ないため, 立地する南部に限らず, 市内全域の市民から利用されていたといえます。
- 総合体育館プール(北部), 調和小学校(東部), 京王アリーナTOKYO(西部)は, 立地する地域以外では, 「存在を知らなかった」の割合が多くなります。その傾向は, 特に小・中学生で顕著です。

【全体傾向】

<16 歳以上の市民>



<小・中学生>

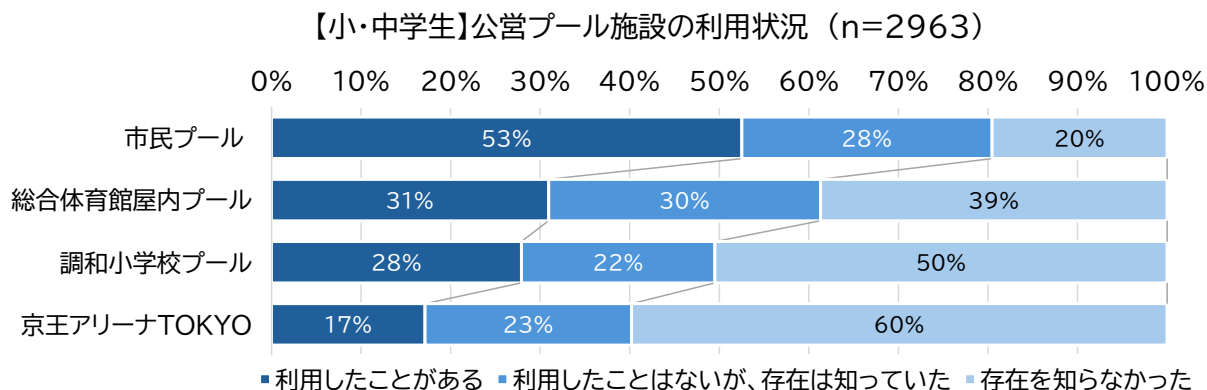
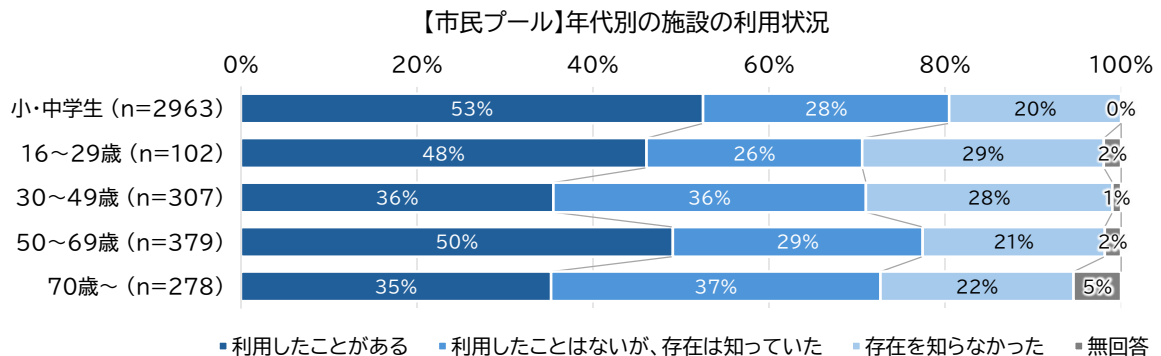


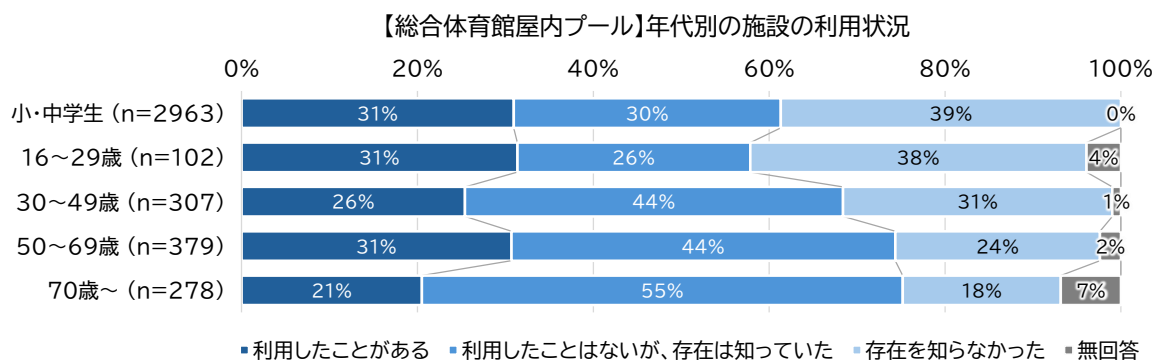
図 7 市内公営プールの認知度

【年代別の傾向】

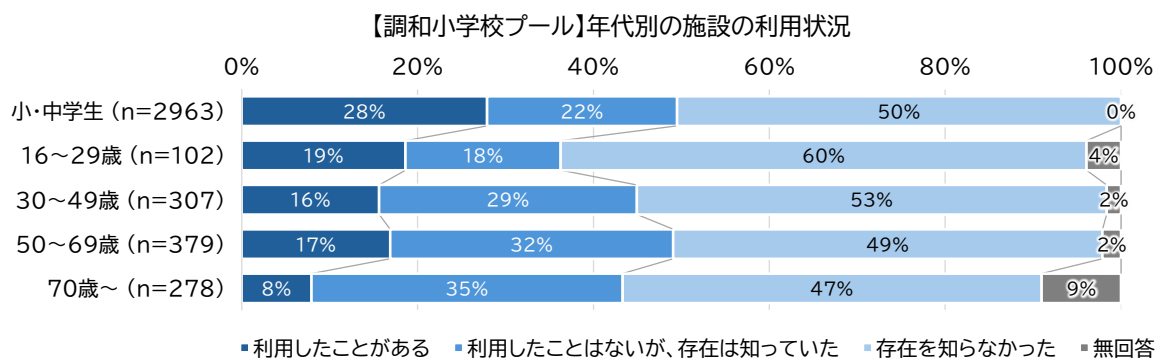
① 市民プール



② 総合体育館屋内プール



③ 調和小学校屋内プール



④ 京王アリーナTOKYO(武蔵野の森総合スポーツプラザ)

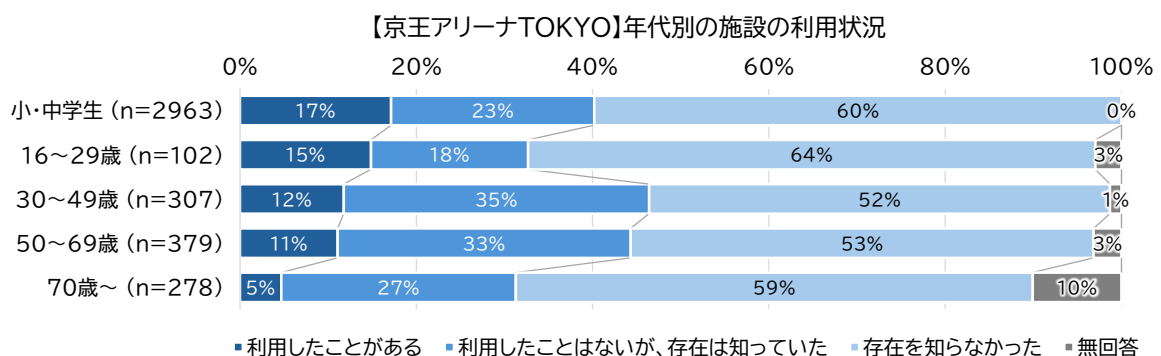


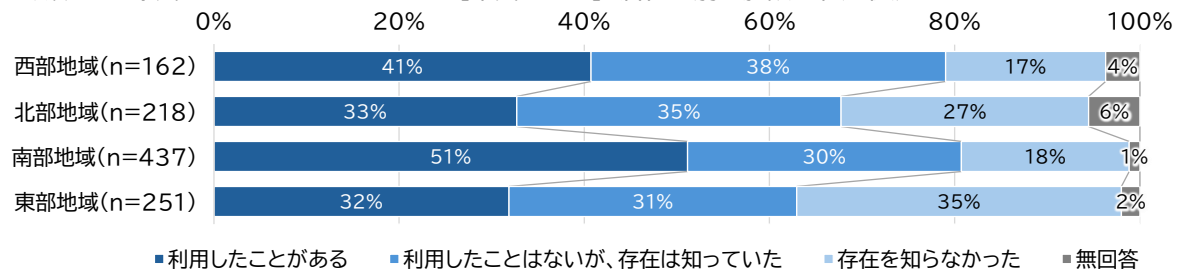
図 8 市内公営プールの年代別の認知度

【居住地別の傾向】

① 市民プール

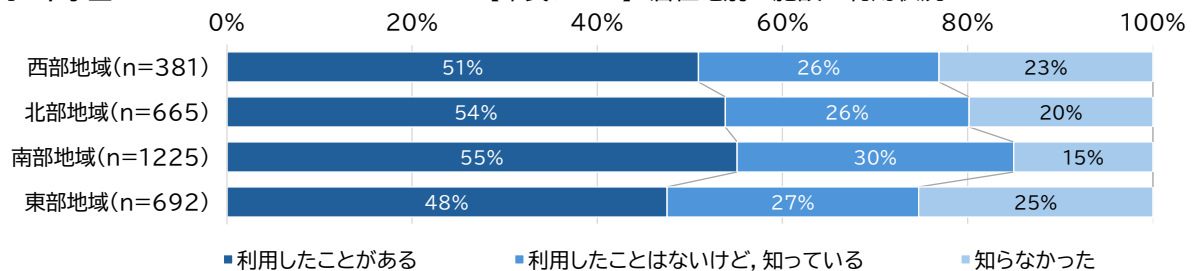
16歳以上の市民

【市民プール】居住地別の施設の利用状況



小・中学生

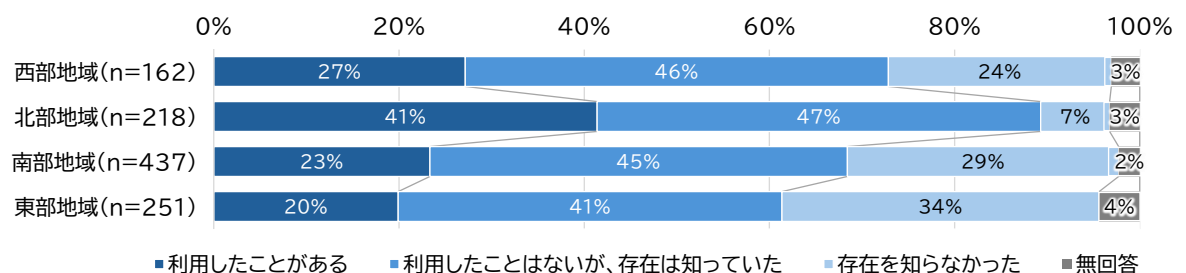
【市民プール】居住地別の施設の利用状況



② 総合体育館屋内プール

16歳以上の市民

【総合体育館屋内プール】居住地別の施設の利用状況



小・中学生

【総合体育館屋内プール】居住地別の施設の利用状況

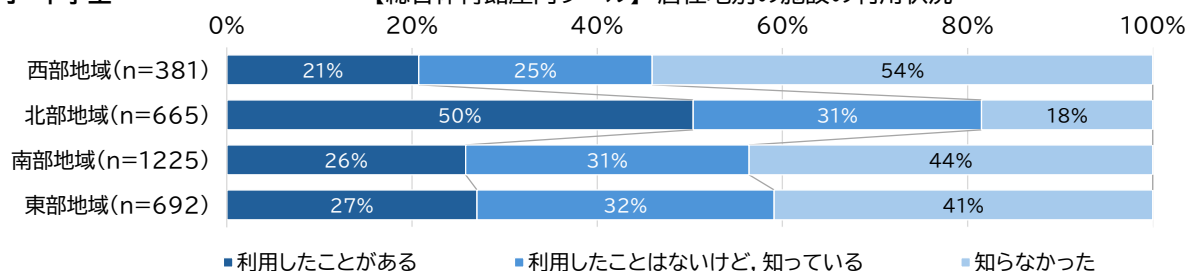
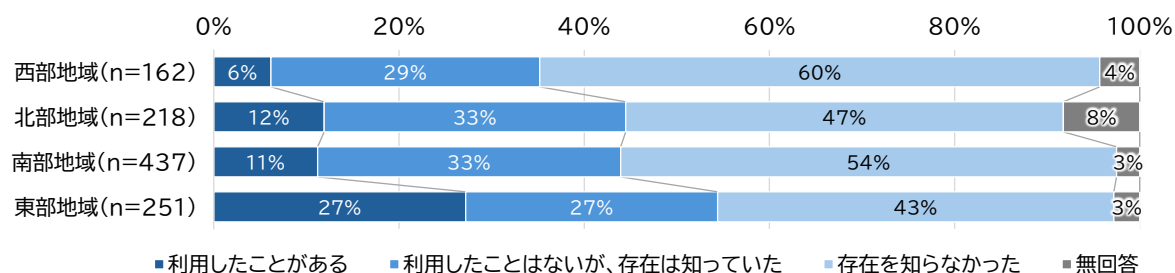


図 9(1) 市内公営プールの居住地別の認知度

③ 調和小学校屋内プール

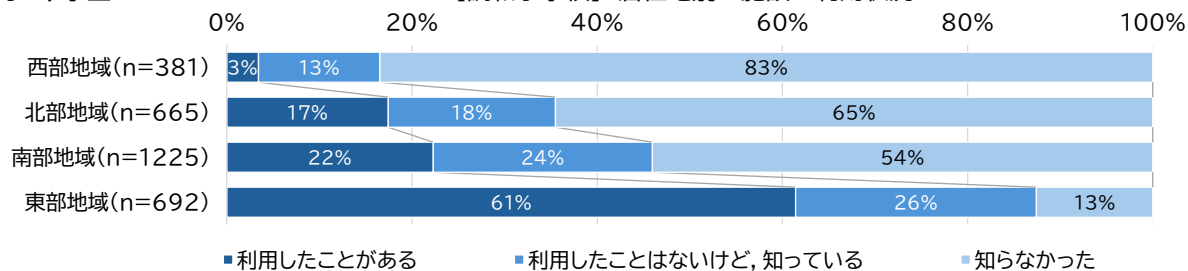
16歳以上の市民

【調和小学校】居住地別の施設の利用状況



小・中学生

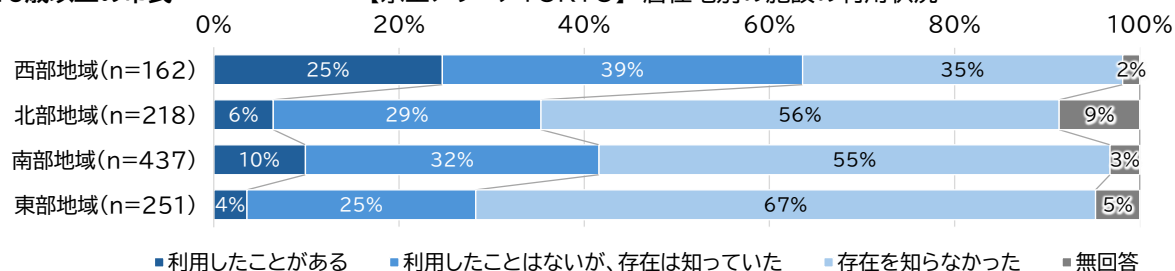
【調和小学校】居住地別の施設の利用状況



④ 京王アリーナTOKYO(武蔵野の森総合スポーツプラザ)

16歳以上の市民

【京王アリーナTOKYO】居住地別の施設の利用状況



小・中学生

【京王アリーナTOKYO】居住地別の施設の利用状況

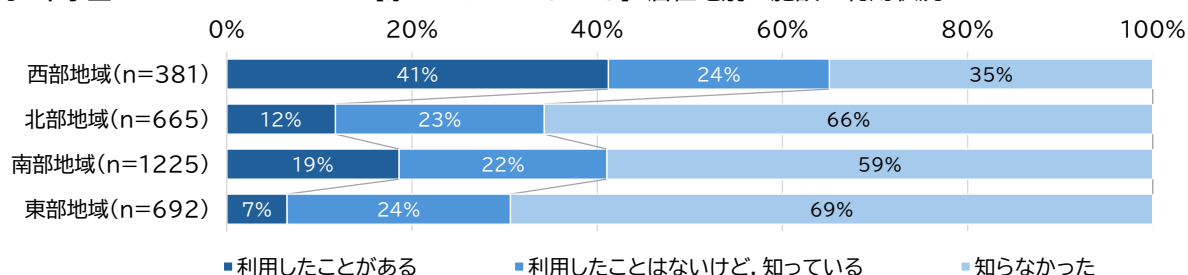


図 9(2) 市内公営プールの居住地別の認知度

設問②

直近の3年程度(コロナ禍後)の期間でプール施設(屋内・屋外,市内・市外,公営・民間を問わず)を利用したことがありますか。

設問③においてプール施設ごとの具体の利用状況を質問する前に,直近におけるプール施設の利用状況について質問しました。

- 直近3年間(コロナ禍後)でプール施設を「利用したことがある」は,市民の約3割,小・中学生の7割でした。
- 16歳以上の市民に限ると,30～49歳が約5割と前後の世代に比べ多く利用しています。

【全体傾向】

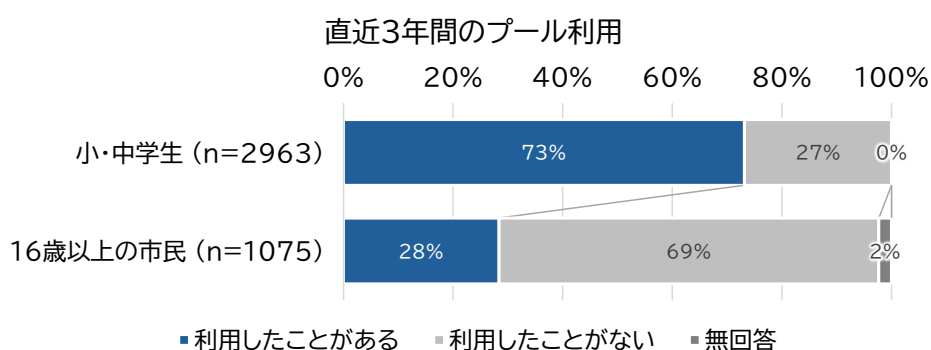


図 10 最近のプール施設利用の有無(全体)

【年代別の傾向】

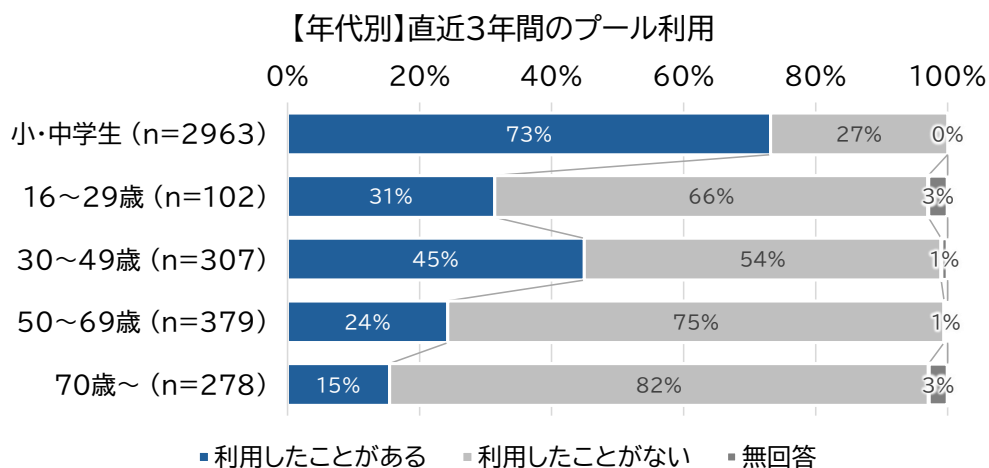


図 11 最近のプール施設利用の有無(年代別)

2) 直近3年間のプール施設の利用状況

設問③

設問②で「(直近の3年程度の期間で)利用したことがある」と回答した方にお伺いします。①利用したことがある施設、②主な利用目的、③施設を選んだ主な理由を施設ごとに回答ください。

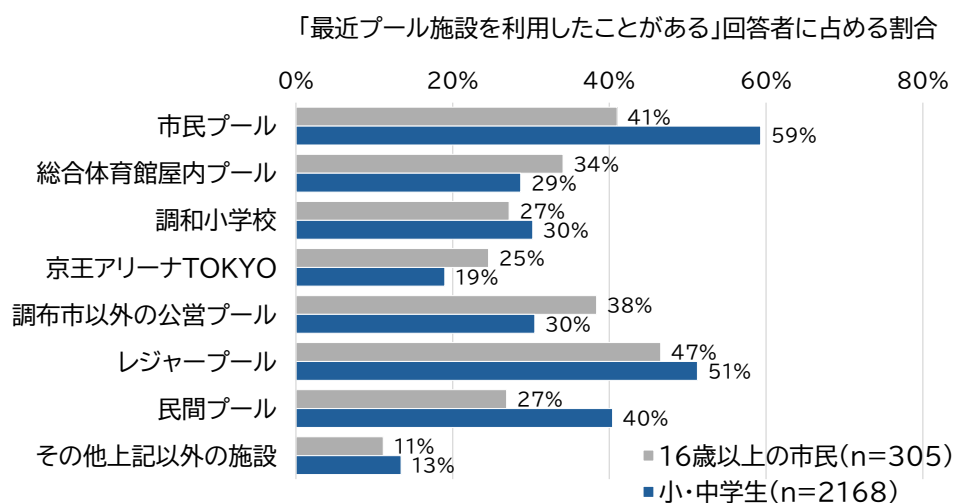
「プール施設を利用したことがある」回答者に対し、プール施設ごとの利用状況を利用目的や居住地等に着眼して分析し、調布市民プールの特性を明らかにするとともに、調布市内のプール施設の全体最適を検討する際の参考資料とすることを目的に質問しました。

また、各プール施設の選定理由を把握・分析し、今後のサービス向上に向けた参考とすることを目的に質問しました。

- 近年の利用状況に限定すると、小・中学生、16歳以上の市民共に「レジャープール」が多いほか、市内の施設では「市民プール」が最も利用されています。
- 居住地別にみると、南部地域の市民は「市民プール」のほか、他の市内3施設も多く利用しています。西部地域の市民は「京王アリーナ TOKYO」を、北部地域の市民は「総合体育館プール」を、東部地域の市民は「調和小学校」を主に利用しています。
- 「調布市以外の公営プール」も多くの市民が利用しています。屋外プールでは「府中市民プール」(府中市)、「郷土の森総合プール」(府中市)、「稲城市民プール」(稲城市)、「狛江市民プール」(狛江市)など、屋内プールでは「SUBARU 総合スポーツセンター」(三鷹市)や「アクアブルー多摩」(多摩市)を多くの市民が利用しています。
- 家族構成に着目すると、いずれのプール施設も「同居家族に子どもあり」が「同居家族に子どもなし」に比べて多く利用されています。

① 利用したことがある施設

【全体傾向】



※ 調布市以外の公営プール: 【屋外】府中市民プール(府中市), 郷土の森総合プール(府中市), 稲城市民プール(稲城市), 狛江市民プール(狛江市) 等
【屋内】SUBARU 総合スポーツセンター(三鷹市), アクアブルー多摩(多摩市) 等

図 12 利用したことがある施設(全体)

【居住地別の傾向】

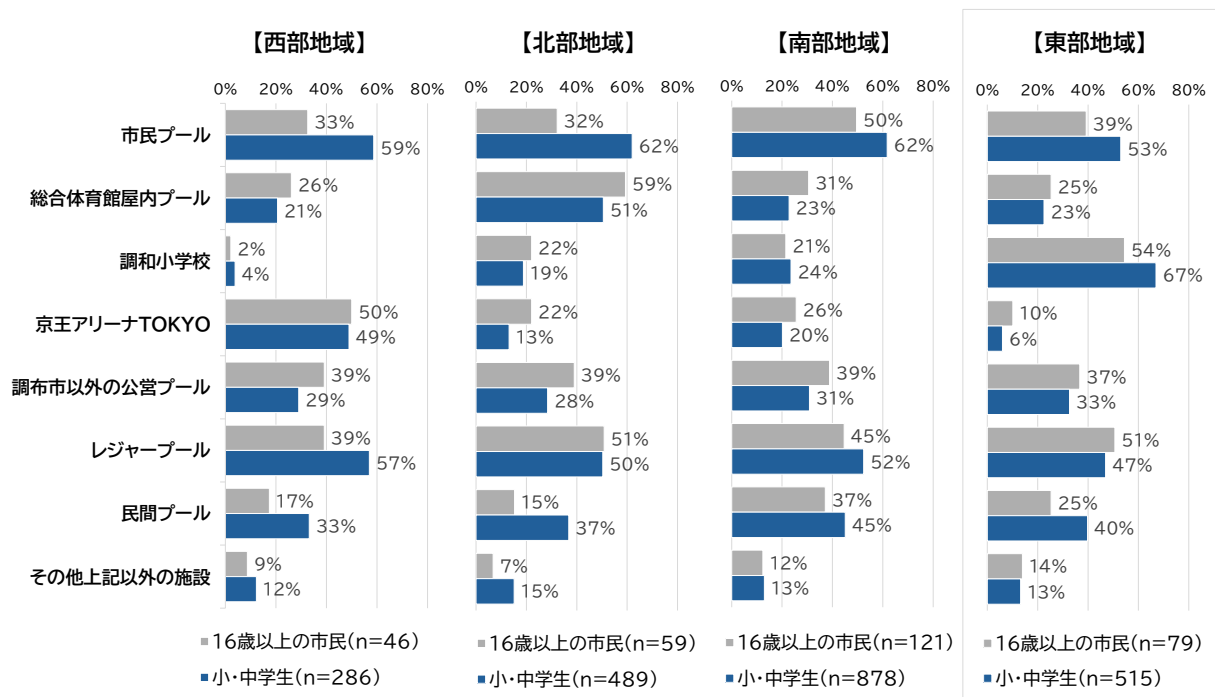


図 13 利用したことがある施設(居住地別1)

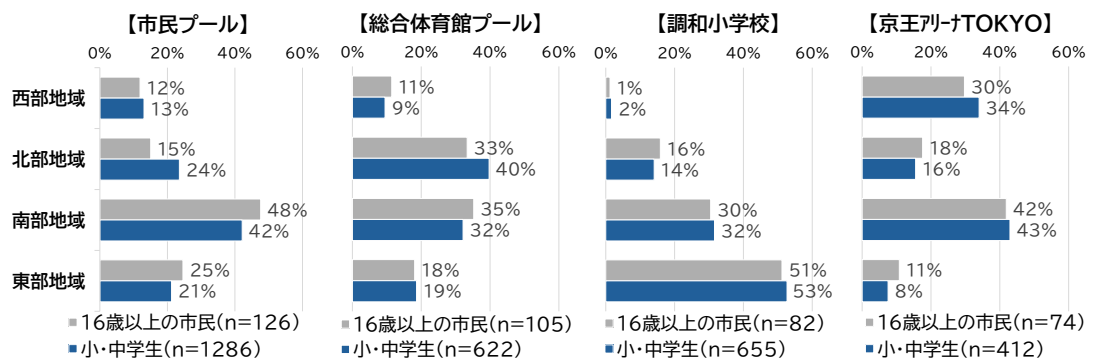


図 14 利用したことがある施設(居住地別2)

【同居家族別の傾向】

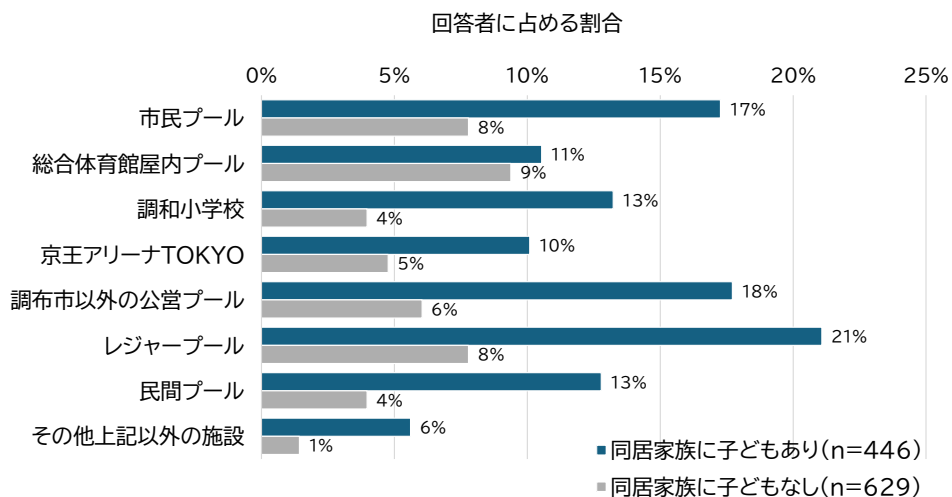


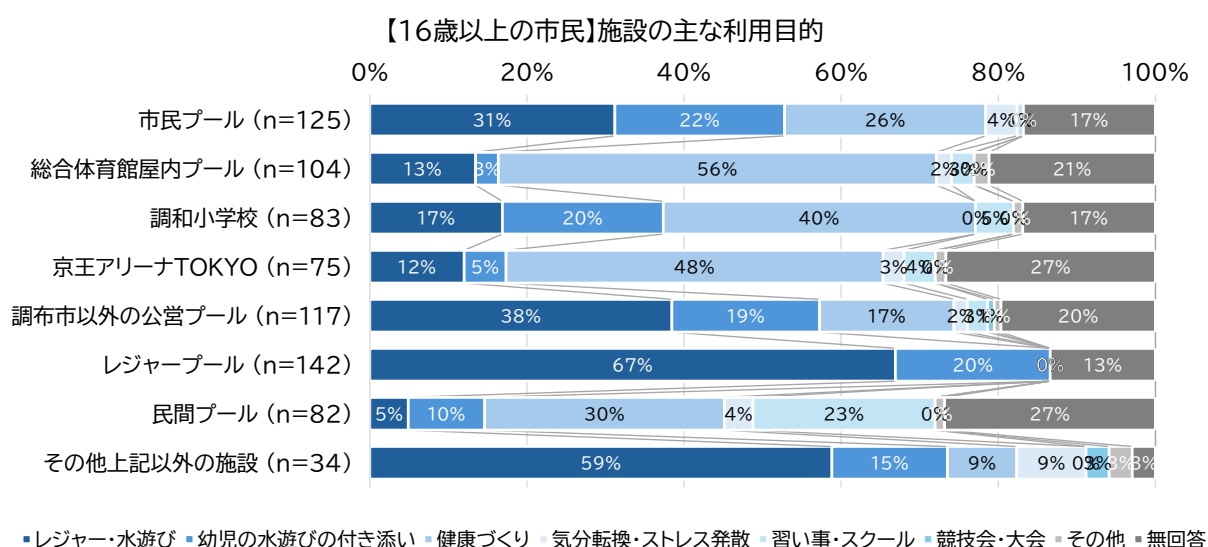
図 15 同居家族の子ども有無による施設の利用傾向(16歳以上の市民)

② 主な利用目的

- 16歳以上の市民を見ると、市民プールは「レジャー・水遊び」、総合体育館と調和小学校、京王アリーナTOKYOは「健康づくり」を主な目的として利用されています。
- 小・中学生は、「習い事・スクール」で通う民間プール施設以外は、ほとんどの施設の利用目的は「レジャー・水遊び」です。
- 幼児用プールのある市民プールと調和小学校では、「幼児の水遊びの付き添い」も2割弱あります。

【全体傾向】

<16 歳以上の市民>



<小・中学生>

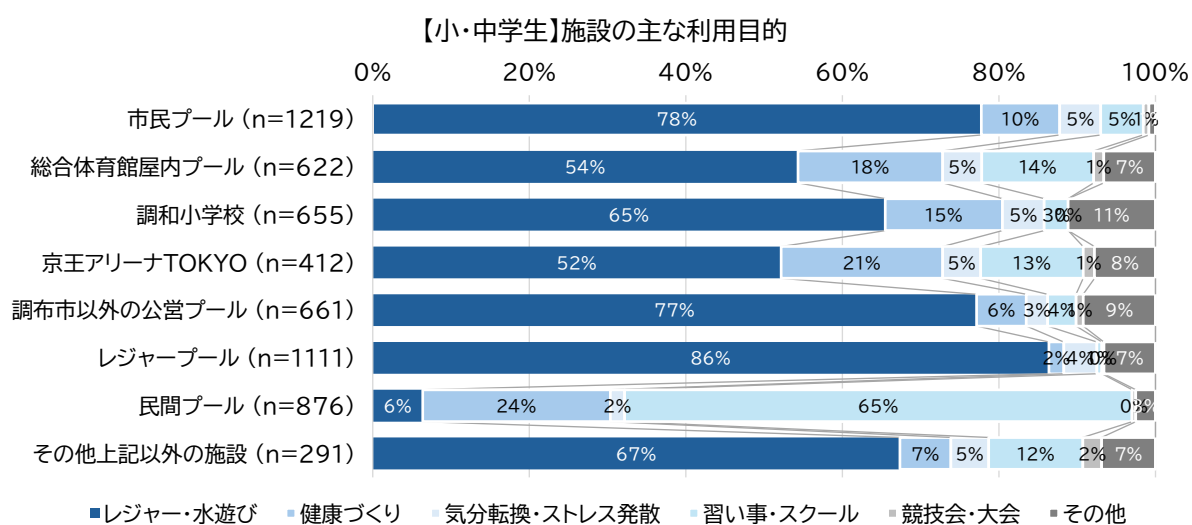


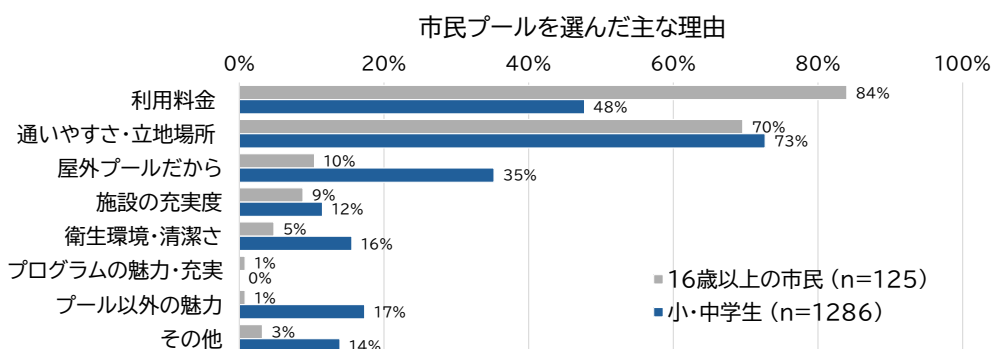
図 16 プール施設ごとの主な利用目的(全体)

③ 利用するプール施設を選んだポイント

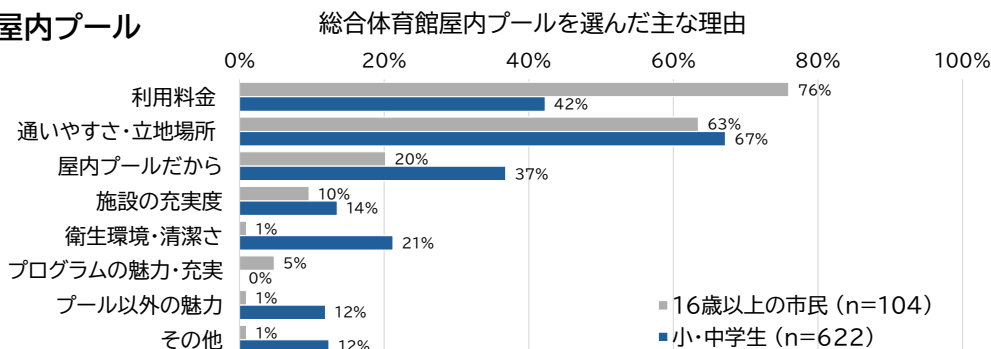
- 市内の公営プール4施設いずれについても、小・中学生、16 歳以上の市民ともに、「利用料金」「通いやすさ・立地場所」を重視して選んでいます。
- 小・中学生は、「屋外プールだから」市民プール(35%)を、「屋内プールだから」総合体育館(37%)、調和小学校(51%)、京王アリーナTOKYO(44%)を選んでいます。
- 京王アリーナTOKYOは、「施設の充実度」「衛生環境・清潔さ」も多くあります。

【全体傾向】

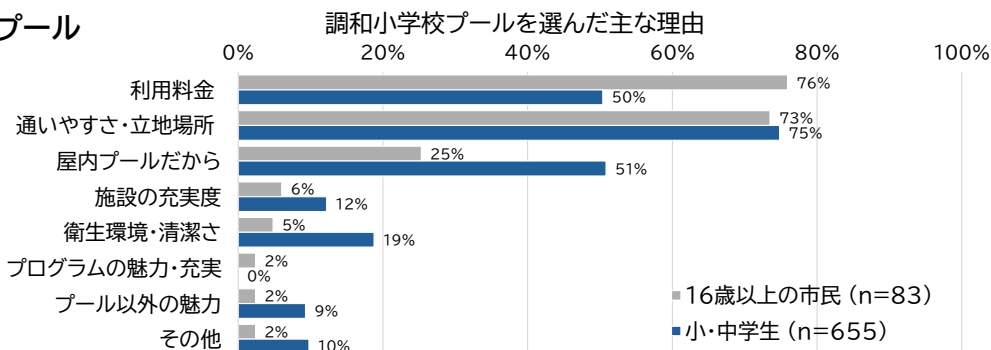
市民プール



総合体育館屋内プール



調和小学校プール



京王アリーナTOKYO

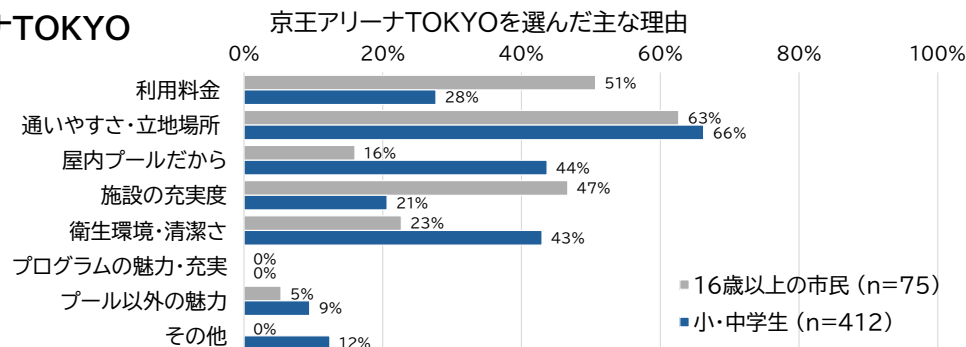
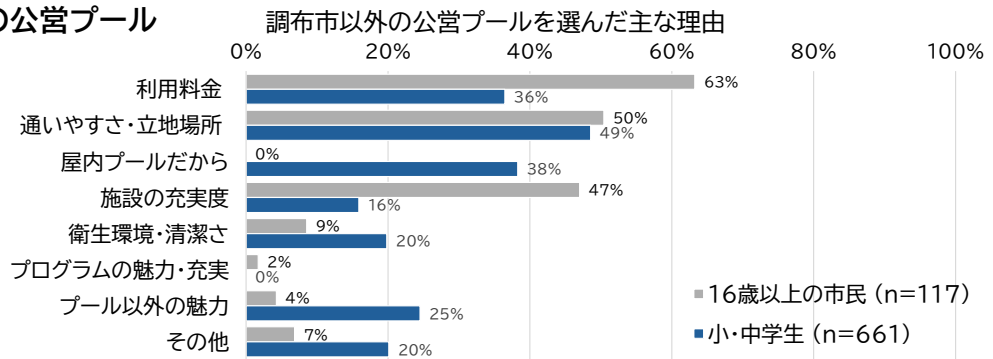
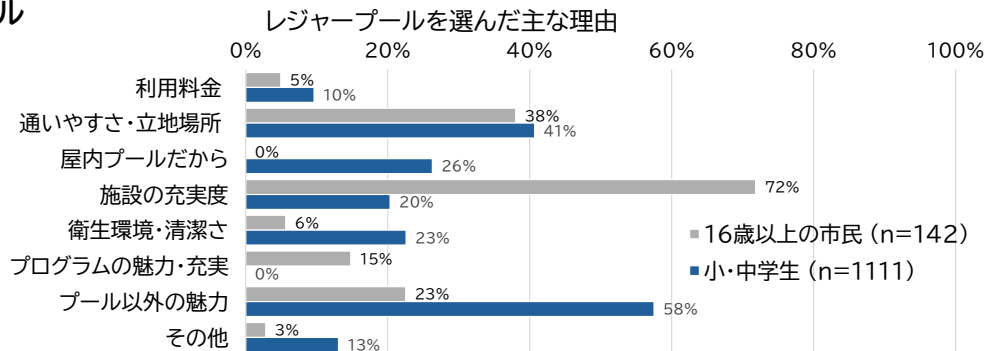


図 17(1) プール施設を選んだ主な理由(全体)

調布市以外の公営プール



レジャープール



民間プール施設

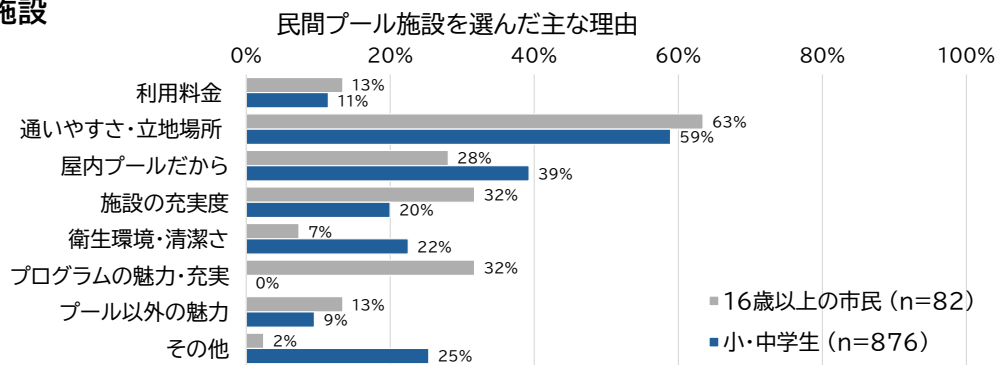
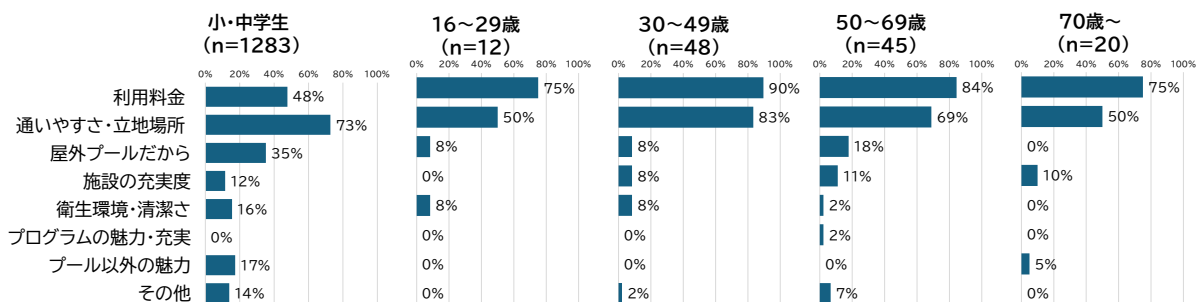


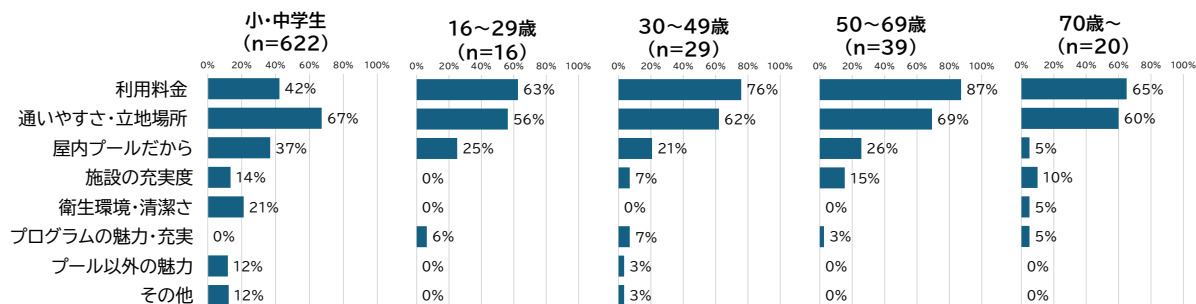
図 17(2) プール施設を選んだ主な理由(全体)

【年代別の傾向】

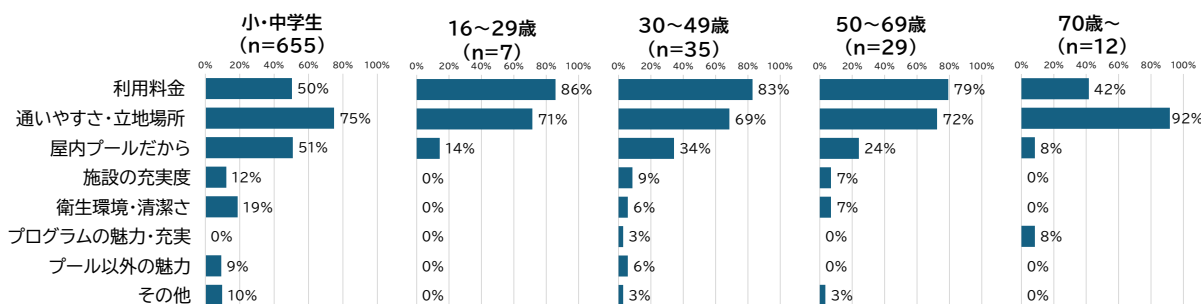
市民プール



総合体育館屋内プール



調和小学校プール



京王アリーナTOKYO

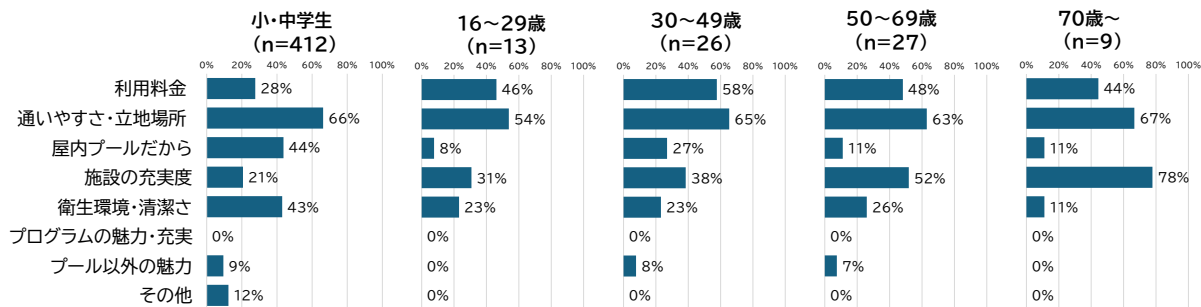


図 18 プール施設を選んだ主な理由(年代別)

3) 直近3年間でプール施設を利用しなかった理由

設問④

設問②で「(直近の3年程度の期間で)利用したことがない」と回答した方にお伺いします。その理由を教えてください。(3つまで選択可)

プール利用の妨げとなっている要因を把握し、今後の施設整備や利用促進策の参考とすることを目的に質問しました。

- 小・中学生, 16 歳以上の市民ともに「特に理由はない」が最も多い。次いで, 小・中学生が「プール施設に魅力を感じない」, 「泳ぐのが苦手」, 「自宅から遠い」, 16 歳以上の市民が「泳ぎたいがきっかけがない」, 「施設の場所を知らない」が多い。
- 上記のほか, 年代別にみると, 小・中学生の約 26%, 30~49 歳の主に子育て世代に該当する年代の約18%が「自宅から遠い」を理由としてあげています。

【全体傾向】

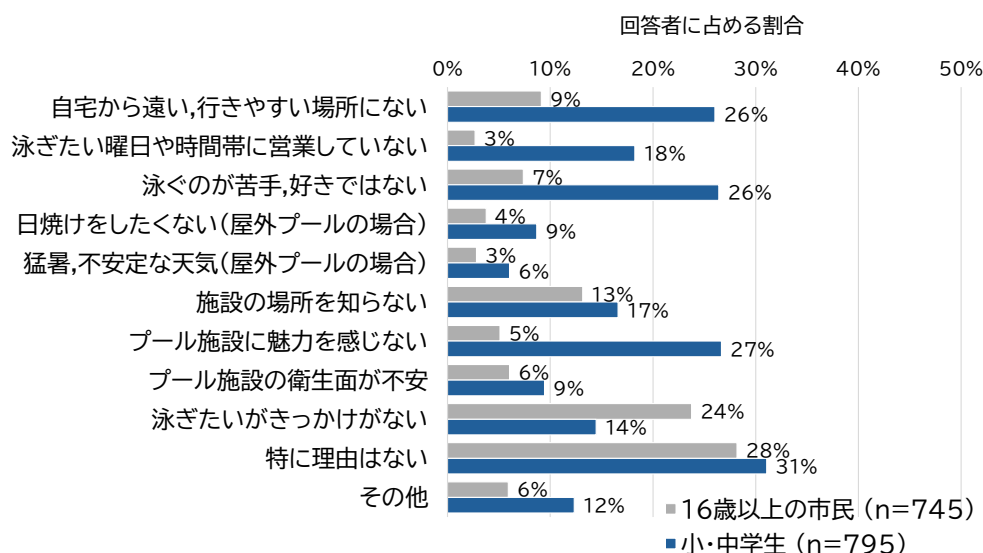


図 19 プール施設を利用しない理由(全体)

【年代別の傾向】

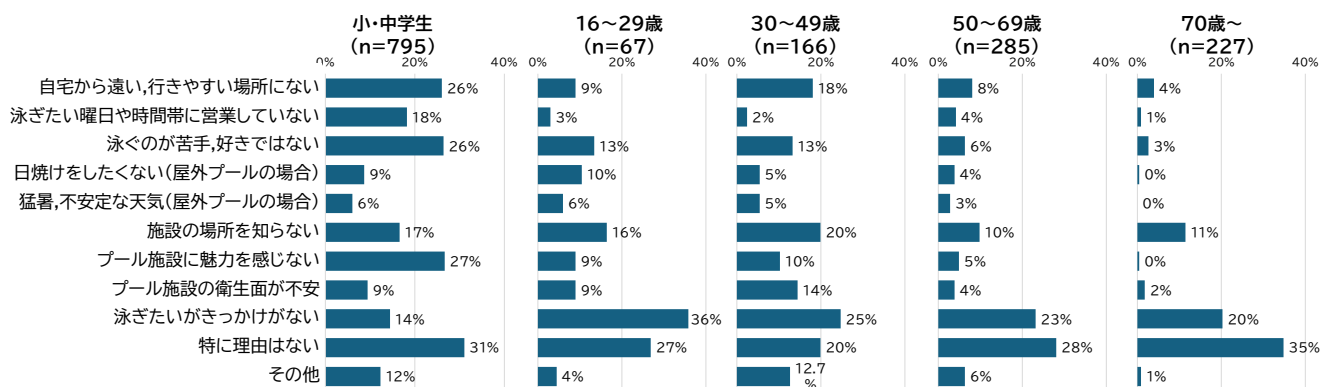


図 20 プール施設を利用しない理由(年代別)

【居住地別の傾向】

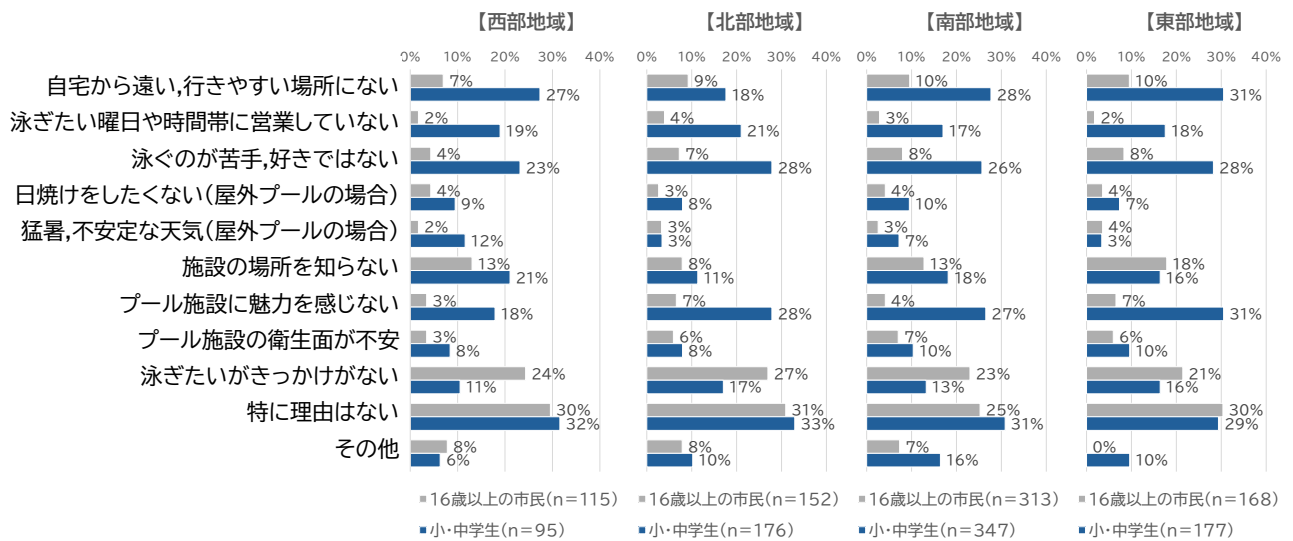


図 21 プール施設を利用しない理由(居住地別)

【同居家族別の傾向】

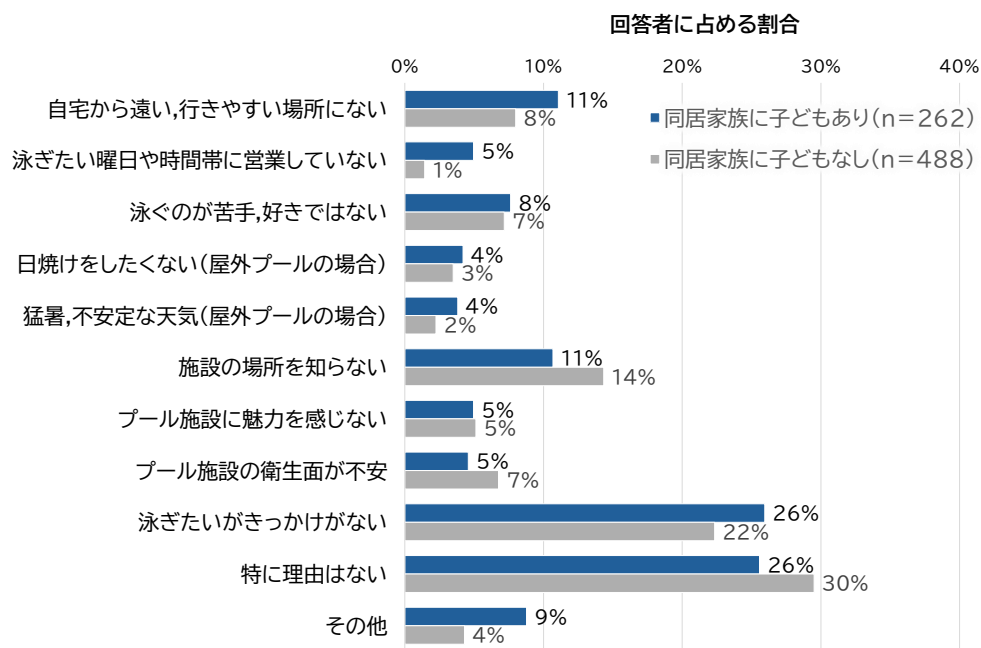


図 22 プール施設を利用しない理由(同居家族の子ども有無:16 歳以上の市民)

4) 公営プールの役割として期待すること

設問⑤

公営プールの役割として期待することは何ですか。
あなたのお考えに一番近いものを一つ選んでください。

市民が公営プールに期待する役割を把握し、調布市の公営プールの全体最適を検討する際の参考とすることを目的に質問しました。

- 小・中学生は、「レクリエーション・レジャーの場の提供」(44%), 16歳以上の市民は「健康増進, 体力向上の場の提供」(46%)が最も多い回答でした。
- 年代別にみると, 30～49歳の子育て世代に該当する年代が「レクリエーション・レジャーの場の提供」を前後の年代よりも多く回答しています。50歳以上では, 「健康増進, 体力向上の場の提供」の割合が5割前後を占めています。
- 家族構成に着目すると, 「同居家族に子どもあり」では, 「レクリエーション・レジャーの場の提供」の回答が「子どもなし」に比べて11ポイント増えています。

【全体傾向】

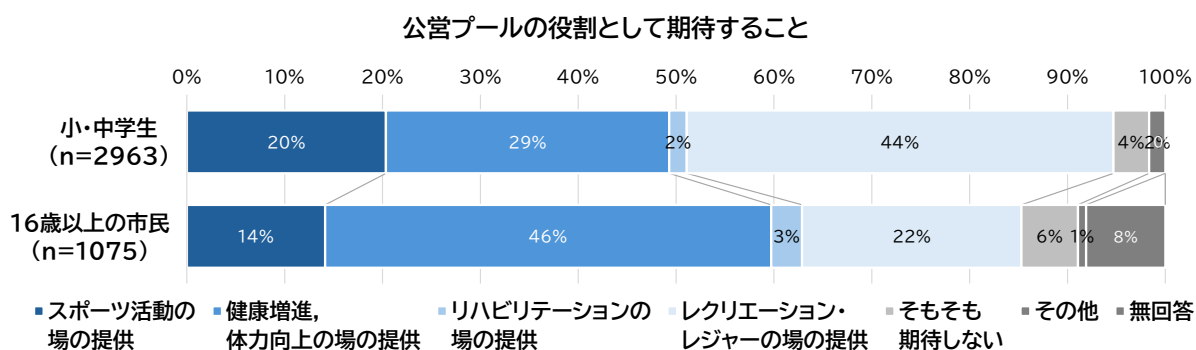


図 23 公営プールに期待する役割(全体)

【年代別の傾向】

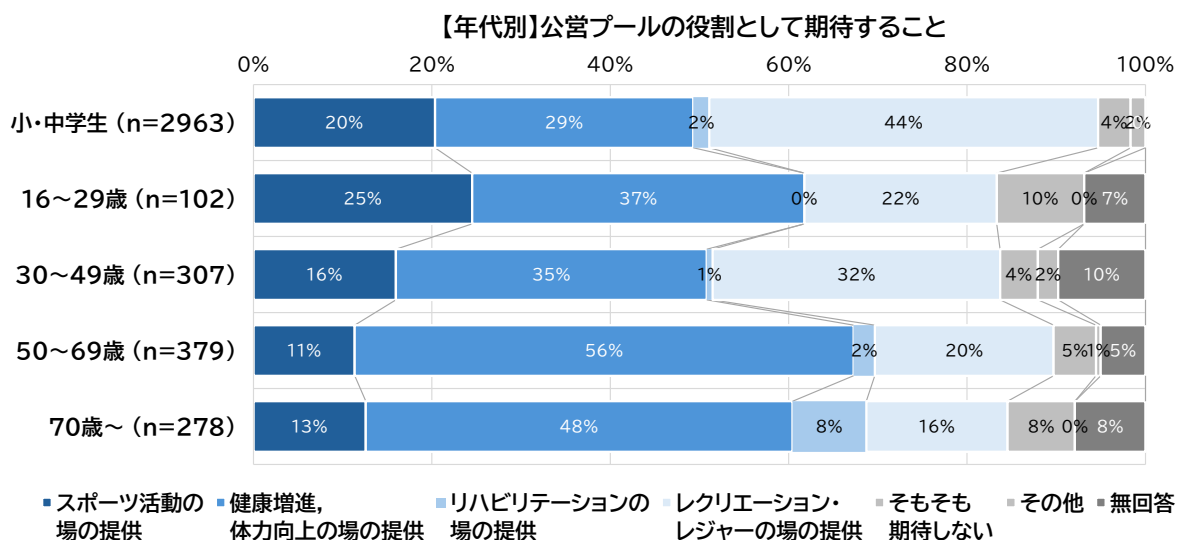


図 24 公営プールに期待する役割(年代別)

【同居家族別の傾向】

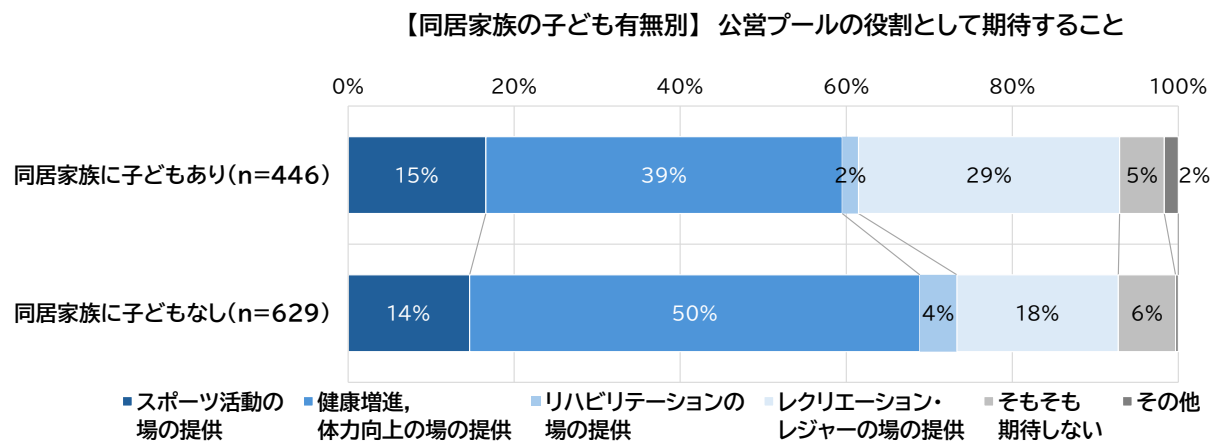


図 25 公営プールの期待する役割（同居家族の子ども有無:16 歳以上の市民）

5) 自由意見

設問⑥

調布市の公営プール(市民プール, 総合体育館プール, 調和小学校屋内プール)に対する意見や要望などがありましたら, 下記にご記入ください。

設問⑥までで把握できていない, 想定外の意見や多様な意見を拾い上げることを目的に公営プールに対する意見や要望を自由に記述してもらいました。主要なテーマ別の意見概要を表 5 に示します。

また, 分類・集計した結果をエラー! 参照元が見つかりません。に示しますが, 自由記述意見をテーマ別に分類・集計する作業は, 客観性が担保できないため, 集計された数値はあくまで参考扱いとします。

① 16歳以上の市民

<市民プールや公営プールの必要性について>

- **【市民プールの存続・再開希望】** 多くは50歳以上の方からの意見でした。主な理由として、「市民プールの再開, 存続を切望する」, 「教育・育成・健康の観点から子どもたちのために不可欠」という意見がありました。
- **【市民プールは不要・廃止】** 主な理由として、「市の財政難や費用対効果を懸念し, 廃止・統廃合を求める」, 「猛暑・気候変動の影響があり, 屋外プールは時代に合わない」, 「利用頻度やニーズが変化しているため, 縮小や廃止・撤去を容認」という意見がありました。
- **【公営プールは必要】** 公営プールには安価で気軽に利用できる価値があり, 民間施設への代替には限界があるため, 公営プールの維持・存続を求める意見がありました。

<市民プールや公営プールに求める機能について>

- **【屋内化・通年利用の要望】** 主に「猛暑や気候変動の影響を考え屋内プール化を希望する」, 「主に健康増進を目的とした日常利用のため, 通年利用できる屋内化を希望する」という意見がありました。
- **【子ども向けの施設・設備, 安全・安心】** 主に「子ども・幼児が楽しめるプール施設・設備の充実」, 「レジャー性の高い設備(スライダー・流れるプールなど)の導入希望」, 「家族や保護者も安心・快適に利用できる配慮(更衣室・日陰・休憩所など)」という意見がありました。

<市民プールや公営プールで改善して欲しいこと, その他>

- **【衛生面・老朽化の不満, 改善要望】** 主に「清潔で衛生的な施設環境を求める」, 「老朽化による施設の使いづらさへの不満, 改善要望」, 「屋外での過酷な環境に対し, 快適に過ごすための施設整備の充実」という意見がありました。
- 上記のほか, **【アクセス・駐車場・立地改善】**, **【バリアフリー・全世代対応】**, **【混雑緩和・利用時間の工夫】**, **【料金・利用制度の見直し】**, **【広報・情報発信不足】**に関する意見もいただきました。

表 5 テーマ別の意見の概要（16 歳以上の市民）

意見テーマ	主な意見と概要
市民プールの 存続・再開希望	市民プールの「存続」・「再開」を希望 ・「市民プールを継続してほしい」 ・「一刻も早く再開してほしい」 ・「なくさないでほしい」 ・「改修してでも再開を」 ・「25mのプールだけでも利用したい」 など
	教育・育成・健康の観点から、子どもたちのために必要な施設 ・「子どもたちに屋外プールを経験させたい」 ・「子ども達の体力向上のために必要」 ・「健全な遊び場」 ・「夏の遊び場がなくなるのは困る」 ・「学校プールが使えない中、必要性が高まっている」 など
市民プールは 不要・廃止	市の財政難や費用対効果を懸念し、廃止・統廃合を求める ・「修繕費・維持費が高すぎる」 ・「税金の無駄」 ・「他のことに使ってほしい」 ・「市の財政状況を考えると優先順位が低い」 ・「運営や改修に多額の費用がかかるなら廃止してよい」 など
	屋外プールは時代に合わない(猛暑・気候変動) ・「猛暑が多く熱中症のリスクが高い」 ・「屋外プールは気候に左右されすぎて非効率」 ・「今後も異常気象が想定される中、時代にそぐわない」 ・「屋外は危険」 ・「使用機会が限られる割にコストがかかる」 など
	利用頻度やニーズが変化しているため、縮小や廃止・撤去を容認 ・「利用者が少ないのでは」 ・「スイミングスクールや他の娯楽で代替可能」 ・「屋外プールは夏季しか使わない」 ・「公営プールは一つあれば十分」 など
公営プールは必要	安価で気軽に利用できる「公営」プールの価値、民間施設への代替には限界 ・「安く利用できてありがたい」 ・「民間プールは高額」 ・「気軽に行ける場所として必要」 ・「商業施設ではなく、市民のための施設として存続を」 ・「健康づくりや運動の場としても重要」 など
屋内化・通年利用 の要望	屋内プール化を希望(猛暑・気候変動) ・「市民プールを屋内化してほしい」 ・「異常気象や猛暑で屋外はもう無理」 ・「天候に左右されない屋内型が良い」 ・「日焼けや熱中症の心配が少なくて安心」 ・「防災面も兼ねた屋内プールの検討をしてみてもは」 など
	通年で利用できる環境の整備(主に健康増進目的、日常利用) ・「冬も利用できる室内プールがありがたい」 ・「健康づくり・体力づくりに通年利用が必要」 ・「スイミングスクールは高額なので代替になる施設を」 ・「子ども向けの屋内プールがあればいい」 など

意見テーマ	主な意見と概要
子ども向けの施設・設備, 安全・安心	子ども・幼児が楽しめるプール施設・設備の充実 ・「幼児も安心して遊べる浅いプールや遊具を導入してほしい」 ・「小さい子も安全に利用できるプールにしてほしい」 ・「乳幼児・小学生向けの水遊びスペースがほしい」 ・「じゃぶじゃぶ池のような施設があるとよい」 など
	レジャー性の高い設備(スライダー・流れるプールなど)の導入希望 ・「ウォータースライダーや流れるプールを設置してほしい」 ・「世田谷や稲城のようなレジャー寄りの施設が良い」 ・「プールに楽しさを」 ・「すべり台・滝などがあると子どもが喜ぶ」 など
	家族や保護者も安心・快適に利用できる配慮（更衣室・日陰・休憩所など） ・「性別の違う親子でも安心して着替えられる更衣室」 ・「見守れるベンチや日陰, 休憩スペースが必要」 ・「小さい子連れでも気軽に利用できる施設に」 など
衛生面・老朽化の 不満, 改善要望	清潔で衛生的な施設環境（更衣室・シャワー・ロッカー等） ・「更衣室がとても汚いので改善してほしい」 ・「清潔なら行きたいと思える」 ・「床の掃除, ロッカーの臭い対策」 ・「水質や塩素の管理」 など
	老朽化による施設の使いづらさへの不満, 改善要望 ・「設備が古い」 ・「ロッカーの鍵が壊れている」 ・「調和小学校プールがまぶしい・狭い・不衛生」 ・「更衣室が狭い・使いづらい」 など
	屋外での過酷な環境に対し, 快適に過ごすための施設整備の充実 ・「プールサイドに日陰がほしい」 ・「雨宿りできるスペースがほしい」 ・「熱中症対策が必要」 など
アクセス・駐車場・ 立地改善	アクセス性の改善（駅近・中心部・公共交通の利便性 など） ・「市の中心部にありと通いやすい」 ・「調布駅から近い立地にプールを」 ・「駅近くに公営プールが欲しい」 ・「仕帰りに駅からアクセスしやすい交通機関のルートがあれば利用したい」 など
	駐車場の整備・拡充 ・「駐車場を無料にしてほしい」 ・「広い駐車場が必要」 ・「駐車場スペースが少ないため不便」 ・「提携でも良いので, 駐車場を充実してほしい」 など
	自宅や生活圏に近い施設 ・「身近に公営プールがあってほしい」 ・「距離的に遠くない調布市民プールによく行った」 ・「家の近くの調和小学校プールは今後利用したい」 ・「家から遠いので利用したことがない」 など
バリアフリー・ 全世代対応	高齢者も安心して使えるプールにしてほしい ・「プールは, 高齢者の健康増進を促進できる」 ・「高齢者向けの公営プールがあったらよい」 ・「若者から高齢者も使えるような屋内施設がよい」 ・「年齢問わず健康や趣味のために安心して泳げる場を」 など

意見テーマ	主な意見と概要
	障がい者や身体の不自由な人も利用できる施設を ・「車いす利用の身体障害者でも利用できるよう配慮を」 ・「障がい者が利用しやすい環境をつくってほしい」 ・「体の不自由な子どもや保護者も安心して水泳や水遊びができる場を」 など
	誰もが気軽に安心して使える、公共性の高いプールを ・「老若男女気軽に利用できる施設であってほしい」 ・「市民が使いやすいプールをお願いしたい」 ・「小学校のプールは親や兄弟と一緒に入れない。性別・年齢問わず安価に利用できる場が必要」 など
混雑緩和・ 利用時間の工夫	利用時間・対象者・混雑を考慮した「柔軟な運営」への要望 ・「夏場の小学校貸し出しによる利用不可時間を減らしてほしい」 ・「子どもと大人、目的別に時間やエリアを分けてほしい」 ・「女性専用や年齢層ごとの時間設定があるといい」 ・「早朝や夜間など、時間帯の拡大や多様化を希望」 など
	混雑状況の可視化やシステム化による利便性向上 ・「リアルタイム混雑状況を Web 等で確認できるようにしてほしい」 ・「混雑緩和のためのシステム化をしてほしい」 ・「気軽に利用できる一方、他者との接触や混雑が不安」 など
	多様なニーズに対応する目的別プログラムやコースの設置 ・「ウォーキングレーンを平日夜にも設置してほしい」 ・「大人向けの中～上級コースを土曜日に設定してほしい」 ・「様々なプログラムがあるとよい」 ・「水泳教室がほしい」 など
料金・利用制度の 見直し	手頃な利用料金, 安価な市民サービスへの要望 ・「年配の団体や市民が利用しやすいように料金を安くしてほしい」 ・「低料金で利用できる健康増進施設が欲しい」 ・「低料金が魅力」 ・「利用料金が手頃で助かる」 など
	利用しやすい料金体系, 利用料金の支払い方法の改善など利便性の向上を ・「定期券や通い放題制度を希望」 ・「スマホでの支払いができるとよい」 ・「調和小プールの 1 時間料金はありがたい」 など
	市民優先や利用範囲の公平性について ・「市民優先での利用を希望」 ・「市民サービスが低下しないよう、近隣市の施設利用補助も検討してほしい」 ・「調和小へ 23 区在住の孫を連れていった時、入場利用を断られた。世田谷区などは自由に利用できる。」 など
広報・情報発信 不足	市民への情報発信・PR の強化を要望 ・「もっと市民にアピールした方がよい」 ・「宣伝を増やしてほしい」 ・「市報などで写真や具体的な利用方法を詳しく掲載してほしい」 ・「イベントや利用状況などの情報発信を」 など
	利用方法や施設内容の分かりやすい案内・紹介の充実 ・「プールの場所や利用方法が分かりにくいので、詳しく紹介してほしい」 ・「こどもでも利用しやすいかなど、利用者目線の情報提供が欲しい」 ・「地図やアクセス情報、施設の設備紹介などの充実を」 など

意見テーマ	主な意見と概要
	多様な利用者に配慮した案内の充実 ・「英語対応の案内があると良い」 ・「若者からお年寄りまで、幅広い層が利用しやすくなるための情報提供が欲しい」 ・「交通手段の案内(バス停や AI オンデマンドなど)も含めて分かりやすくしてほしい」など
その他	市民プールの存続や運営に対する期待と不安 ・「維持管理が大変そうで心配している」 ・「市の将来の財政予測を踏まえて実施して下さい」 ・「平日は利用者に対して監視員が多いと感じる」 など
	利用しやすい雰囲気や楽しく気軽に通える施設を望む ・「調和小プールのルールが厳しすぎ。監視員がすぐ注意するので楽しめない。」 ・「気軽に通える雰囲気があれば良い」 ・「機会があれば利用したい」 ・「今後使ってみたい」 など
	子ども向けの施設イメージと利用者層の多様化について ・「子どもの遊び場のイメージが強く、大人や高齢者には利用しづらい印象」 ・「施設の多様な活用(例:フィットネスパークや屋外シネマなどへの転用検討)」 ・「泳ぐだけでなく健康ランドのような施設にしてほしい」 など

② 小・中学生

<市民プールや公営プールの必要性について>

- **【市民プールの存続・再開希望】** 南部地域の小・中学生から市民プールの営業再開や存続を求める意見が最も多くありました。また、全体として、再開時期を気にする声や、改修してこれからも利用し続けたいという意見がありました。
- **【市民プールは不要・廃止】** 市民プールの廃止に関する意見は少なく、「このままでいいのではないか」といった現状維持を求める意見がありました。

<子どもから大人まで全ての市民が楽しめるプールについて>

- **【みんなで楽しめるプール】** 「どんな人でも来やすい」「安心して利用できる」といった年齢や性別等を問わず、すべての市民が楽しく利用できるプールを求める意見がありました。
- **【子ども向け施設】** 「小さい子でも入れる浅いプールを作してほしい」といった乳幼児から低学年の子どもでも安心して遊べるプール施設を求める意見がありました。

<市民プールや公営プールで改善して欲しいこと、その他>

- **【レジャー施設の設置】** ウォータースライダーや流れるプールなどの遊具・レジャー要素の充実や、泳力向上だけではなく、楽しく遊べるプールを要望する意見がありました。
- **【衛生面の不満, 改善要望】** 「清潔」、「綺麗」などのキーワードが多く、特に更衣室の床の汚れやトイレの衛生状態に関する意見が集中していました。
- **【安全性の確保】** 「怪我をしない」、「溺れないように」など安全性に関する意見や、監視体制の強化や混雑時の安全確保を求める意見もありました。
- **【設備・利用ルールの改善要望】** 「たくさんの人が遊べる広いプールにして欲しい」や「更衣室やシャワーの設備を新しくしてほしい」などの設備改善を求める意見がありました。また、「浮き輪を使えるようにして欲しい」や「年齢でエリアを分けて欲しい」など、プール施設の利用ルールに関する改善要望もありました。
- 上記のほか、**【アクセス・立地改善】**、**【屋内化・全天候型】**、**【設備・利用ルールの改善】**、**【料金・コスト】**、**【広報・情報発信不足】**に関する意見もいただきました。

表 6 テーマ別の意見の概要（小・中学生）

意見テーマ	主な意見と概要
市民プールの 存続・再開希望	市民プールの「存続」・「再開」を希望 ・「市民プールを早く使えるようにしてほしい」 ・「運営していないのは困る」 ・「早期の修繕・再開を希望」 など
	子どもの夏の居場所・遊び場としての必要な施設 ・「夏休みに子どもが遊ぶ場所がない」 ・「子どもたちが喜ぶ施設を残してほしい」 など
市民プールは 不要・廃止	現状維持や財政困難を懸念し、廃止を求める ・「このままで大丈夫」 ・「税金の無駄、財政が苦しくなる」 など
みんなで楽しめる プール	幅広い年代が利用できる施設 ・「子どもから高齢者まで」 ・「世代を問わず使える」 ・「子どもから大人まで楽しく泳げる」 など
	全ての市民が楽しめる施設 ・「誰でも行きやすい」 ・「どんな人でも来やすい」 ・「安心して利用できる」 など
屋内化・全天候型 プール	室内プール化を望む ・「屋内プールがほしい」 ・「室内プールを増やしてほしい」 ・「屋根付きプールがよい」 ・「年中使えるプールにしてほしい」 ・「冬にも使えるプールがあれば嬉しい」 など
	子どもや家族が安心して楽しめる屋内施設の要望 ・「子どもだけで行ける屋内施設」 ・「遊具やスライダーのある屋内プール」 ・「安全な屋内施設がいい」 など
子ども向け施設	小さい子どもが安心して遊べる浅い・安全なプールを希望 ・「子どもだけで行ける屋内施設」 ・「深いプールが多くて小さい子が使いにくい」 ・「小さい子どもでも入れる浅いプールを作してほしい」 ・「未就学児やおむつの子でも遊べる場所が欲しい」 ・「子どもが楽しく遊べるゾーンを作してほしい」 など
	夏の子どもの遊び場として開放・利用しやすさを求める ・「夏休みに子どもが使いやすいことが大事」 ・「夏場、子どもの遊び場として開放してほしい」 ・「子どもが楽しく遊べるゾーンを作してほしい」 など

意見テーマ	主な意見と概要
レジャープール化	ウォータースライダーや流れるプールの設置を希望 ・「ウォータースライダーがほしい」 ・「ウォータースライダーを何台も設置して欲しい」 ・「流れるプールがあると楽しい」 ・「流れるプールがあると泳ぐだけではなく遊べる」 など
	遊具・レジャー要素の充実を希望 ・「波が出るプール」 ・「アトラクションやイベント」 ・「遊園地みたいな要素を」 ・「府中市民プールやアクアブルー多摩のような施設が理想」 など
衛生面, 安全性	清潔なプール施設, 現状の衛生面の改善を希望 ・「きれいなプールがいい」 ・「更衣室やロッカー室が不衛生」 ・「臭いが気になる」 ・「更衣室の床の濡れ・汚れやトイレの衛生状態が気になる」 など
	安全に遊べる・利用できるプールを希望 ・「怪我がなく楽しめるプール」 ・「溺れないように」 ・「安心・安全に利用できるように」 など
アクセス・立地	アクセスしやすい場所にプール施設の設置を希望 ・「近ければ頻繁に行くのに」 ・「近所にあってほしい」 ・「住んでいるところから行きづらい」 ・「場所が遠くて利用が難しい」 など
	駐車場や公共交通機関が少ないことへの不満 ・「駐車場が少ない」 ・「暑い中で自転車移動はつらい」 ・「交通の便がいい場所がいい」 ・「夏の時期は, 臨時バスを出してほしい」 など
設備・利用ルールの改善	プール施設の改善要望 ・「プールを広くしてほしい」 ・「たくさんの人が遊べる広いプール」 ・「個室の着替えスペースが欲しい」 ・「清潔なシャワーやロッカーが必要」 など
	プール施設利用時のルール改善要望 ・「浮き輪を使えるようにしてほしい」 ・「遊ぶゾーンと泳ぐゾーンを分けてほしい」 ・「もっと自由に遊べるルールがいい」 など
料金・コスト	手頃な利用料金の要望 ・「値段を安くしてほしい」 ・「料金を 500 円以上, 上げないでほしい」 ・「安くて楽しいプールがいい」

意見テーマ	主な意見と概要
広報・情報発信不足	プール施設の広報活動の強化を希望 ・「夏休み前などに学校でチラシを配ってもらえると市民プールの存在を思い出せるのでよい」 ・「今回のアンケートで初めて知った情報がたくさんあったので、もっと積極的にアナウンスしてほしい」 ・「どんなところにあるのかなどが載ってあるチラシなどを作ってほしい」 など
	利用方法や施設内容の分かりやすい案内・紹介の充実 ・「プールの開放時間を知りたい」 ・「知らなかったのでどうしたら利用できるかをわかりやすく教えてほしい」 ・「空き具合がリアルタイムでわかるといい」 など
その他	イベント開催の要望 ・「市民プールにも楽しいイベントを追加して欲しい」 ・「イベントで友だちなどを作りたい」 ・「何かイベントをやってほしい」 ・「泳ぐこと以外にも遊べる要素が欲しい」 など
	泳ぎの技術向上や教室開催の希望 ・「泳ぎ方を教えてくれる人がいたらいい」 ・「水泳教室を多く開催して欲しい」 ・「上手に泳ぎたい」 など

(5) アンケートの総括

1) 公営プールの認知状況について

- 「市民プール」は、地域によらず全市的に認知されているといえます。
- 一方、「総合体育館プール」(北部)、「調和小学校」(東部)、「京王アリーナTOKYO」(西部)は、それぞれが立地する地域以外では、「存在を知らなかった」の割合が多く、その傾向は、特に小・中学生で顕著です。

2) 公営プールの利用状況について

- コロナ禍以降に限定すると、16歳以上の市民の約3割、小・中学生の約7割がプール施設を利用しています。市内の施設では「市民プール」が最も利用されています。
- 居住地別にみると、南部地域の市民は「市民プール」のほか、他の市内3施設も多く利用しています。西部地域の市民は「京王アリーナ TOKYO」を、北部地域の市民は「総合体育館プール」を、東部地域の市民は「調和小学校」を主に利用しています。
- 家族構成に着目すると、いずれのプール施設も「同居家族に子どもあり」が「同居家族に子どもなし」に比べて多く利用されていることから、子どもと一緒に利用する状況が多いものと推察できます。
- 調布市以外の公営プールも多くの市民が利用しています。屋外プールでは「府中市民プール」(府中市)、「郷土の森総合プール」(府中市)、「稲城市民プール」(稲城市)、「狛江市民プール」(狛江市)など、屋内プールでは「SUBARU 総合スポーツセンター」(三鷹市)や「アクアブルー多摩」(多摩市)を多くの市民が利用しています。

3) 公営プールの利用目的について

- 16歳以上の市民が、市民プールは「レジャー・水遊び」、総合体育館と調和小学校、京王アリーナTOKYOは「健康づくり」を主な目的としているのに対し、小・中学生は、「習い事・スクール」で通う民間プール施設以外は、ほとんどの施設の利用目的は「レジャー・水遊び」です。このことから、小・中学生は、夏季のみの屋外プールと通年利用の屋内プールの違いはあまり意識せず、公営プール施設を「レジャー・水遊び」の場ととらえているものと推察できます。
- 幼児用プールのある市民プールと調和小学校では、幼児の水遊びの場としても利用されています。

4) プール施設を選ぶ際のポイントについて

- 市内の公営プール4施設いずれについても、市民は「利用料金」と「通いやすさ・立地場所」を重視して選んでいます。
- プール施設を利用していない市民に「利用していない理由」を聞いたところ、小・中学生や 30～49 歳の主に子育て世代に該当する年代が「自宅から遠い・行きやすい場所がない」を理由としてあげていることから、子どもや子育て世代の利用を期待するためには、「通いやすさ・立地場所」は重要な要素といえます。

5) 公営プールに期待する役割について

- 小・中学生や子育て世代に該当する年代は「レクリエーション・レジャーの場の提供」を多く期待しています。
- 特に50歳以上では「健康増進、体力向上の場の提供」を多く期待しています。

6) 市民プールや公営プールの必要性について

- 自由意見では、市民プールの存続・再開を希望する意見が、50 歳以上の方から多く寄せられました。主に『教育や育成、健康の観点から』、『子どもたちのために』、という意見でした。
- 一方、市の財政難や費用対効果を懸念し、夏季のみの屋外プールの廃止・統廃合を求める意見も寄せられました。主に『近年の猛暑や気候変動の影響のため』、『利用頻度やニーズが変化しているため』、という意見でした。
- 公営プール(主に屋内プール)は必要という意見も寄せられました。主に『安価で気軽に利用できる価値がある』、『民間施設への代替は限界がある』、という意見でした。

7) 市民プールの屋内化・通年利用への再整備について

- 自由意見では、夏季のみ営業する屋外の市民プールについて、屋内化し、通年利用できるように再整備を要望する意見も寄せられました。主に『猛暑や気候変動の影響を考えて』、『健康増進を目的とした日常利用のため』、という意見でした。

8) 子ども向けの施設・設備について

- 自由意見では、子ども向けの施設・設備の充実を求める意見も寄せられました。主に、『子ども・幼児が楽しめるプール施設・設備の充実』、『レジャー性の高い設備(スライダー・流れるプールなど)の導入希望』、『家族や保護者も安心・快適に利用できる配慮(更衣室・日陰・休憩所など)』という意見でした。

2. 団体ヒアリング調査

(1) 調査概要

1) 調査目的

団体ヒアリング調査は、施設管理者の視点、施設利用者(受益者)を代表する視点、水泳の普及・振興の視点などから、公営プールのあり方や屋外プールの必要性、今後の利用見通し等について意見をうかがい、今後の調布市民プールのあり方を検討するうえで有益な知見を得ることを目的に行いました。

2) 調査方法

訪問による個別対話形式

3) 調査対象者

以下の団体を調査対象としました。

表 7 団体ヒアリングの調査対象者

調査対象者	選定理由
公益社団法人 調布市スポーツ協会	スポーツ大会の企画・運営等を通じて調布市のスポーツ振興を担い、また指定管理者として調布市総合体育館の管理運営を行っている
調布市水泳連盟	水泳競技大会の企画・運営や水泳教室、水泳指導者の育成等を通じて調布市の水泳の振興に貢献している
特定非営利活動法人 調和SHC倶楽部	市内唯一の総合型地域スポーツクラブであり、健康目的の水泳や水中歩行等のサークル、小学生のスイミングサポート等を実施している

4) 主なヒアリング事項

対象者に事前送付した基本的なヒアリング事項を示します。このほか、ヒアリング時の状況に応じて適宜追加して実施しました。

- 貴団体が総合体育館プールや調和小学校プールで行っているプログラムについて、概要をご教授ください。
- 新型コロナウイルス感染拡大前(2019年)と比較して、現在の総合体育館プールや調和小学校プールの利用者の状況に変化があれば、その内容を具体的にご教授ください。
- 調布市市民プールが休止している状況を前提に、各団体の立場から、市内のプール施設に関する問題や課題、市への要望等がありましたら、ご教授ください。
- 調布市民プールの今後の方向性に関し、想定可能な以下の3つそれぞれについて、団体の立場から気になる点、懸念や課題、市への要望などがありましたらご教授ください。
方向性①:50mプールを応急改修し、維持・存続(耐用年数が到来した時点で更新)
方向性②:屋内プールとして再整備(位置は現在地、もしくは別の適地)
方向性③:市民プールは廃止し、市内の各公営プールに機能を移転(分散)

(2) ヒアリング調査の実施

以下の通りヒアリング調査を実施しました。

表 8 団体ヒアリングの実施

実施日	団体名	対応者
7月11日(木)	公益社団法人調布市スポーツ協会	事務局長, 事務局総務係長 計 2 名
	調布市水泳連盟	会長, 競技委員長 計 2 名
7月12日(金)	特定非営利活動法人調和SHC倶楽部	会長, 副会長, 事務局長 計 3 名

(3) ヒアリング調査の実施結果

1) 公益社団法人 調布市スポーツ協会

調布市総合体育館
プールで行っている
プログラムについて

● 総合体育館で実施されているプログラム

- ・ 総合体育館プールでは, 15 歳以上を対象に 8 プログラム, ジュニアを対象に 3 プログラムを実施している。
- ・ 総合体育館プールのプログラムは, 調布市水泳連盟が運営をしているため, 一般のスイミングスクールと比較して費用が安いのが特徴である。



総合体育館プール

出典:調布市スポーツ協会 HP

初心者スイミングスクール【令和7年度】(各期7回/水曜日)

内 容	基本水中動作習得・クロール泳法習得 他
対 象	調布市在住・在勤の15歳以上の方(※中学生を除く)
会 場	調布市総合体育館「屋内プール」(深大寺北町2-1-65)
日 程	(第1期) 5/7, 5/14, 5/21, 5/28, 6/4, 6/11, 6/18 (申込期間) 3/20~3/30(必着) (抽選結果発表) 4/10(予定)
	(第2期) 9/3, 9/10, 9/17, 9/24, 10/1, 10/8, 10/15 (申込期間) 7/20~7/30(必着) (抽選結果発表) 8/15(予定)
時 間	午前10時30分~正午
定 員	各期20人(多数抽選)
参加費	3,500円(全7回分/初回納入/プール使用料を含む)

総合体育館プールのプログラムの例

出典:公益社団法人調布市スポーツ協会 HP

- ・ 月謝は不要で, 多くのプログラムが当日申し込み可能のため, 気軽に市民がプログラムに参加できることが特徴である。

新型コロナウイルス感染症拡大前後でのプール施設における利用者の状況の変化について	● 新型コロナウイルス感染拡大の影響 ・ 新型コロナウイルス感染拡大中は、緊急事態宣言の影響で休館と開館を繰り返していた。一番影響を受けたのが令和 2 年から令和 3 年の間である。 ・ 新型コロナウイルス感染拡大を機にプログラムの参加費の支払い方法を「都度払い」に変更した。 ・ 平成 28 年をピークに利用者は減少している。現状は、最も利用が多かった年の5, 6割程度の利用者数である。利用者の減少は新型コロナウイルス感染拡大だけではなく、ここ数年間、総合体育館プールの施設改修工事を行っており、通年通して営業している年が少ないことも影響している。一概に新型コロナウイルス拡大で利用者が減少したとは言えない。 ・ 新型コロナウイルス感染鎮静後から徐々に利用者数は増加しているが、最盛期よりは少ない状態である。平日に仕事をする人が増えた影響もある。							
	● プール施設の利用状況 ・ 調布総合体育館プールは、シルバー料金を導入しているため、シニア世代の利用者数が多い状況である。 シルバー登録カードを作成して施設利用する場合の利用料 <table><tr><th>施設名</th><th>割引後の施設利用料</th><th>既定の施設利用料</th></tr><tr><td rowspan="2">総合体育館</td><td>入場後 2 時間 30 分までの利用:200 円</td><td rowspan="2">2 時間 30 分まで:400 円 1 時間 15 分まで:200 円</td></tr><tr><td>入場後 1 時間 15 分までの利用:100 円</td></tr></table> ・ プール施設の料金支払い方法としてキャッシュレスを導入している。キャッシュレスの利用者は多いが、手数料が発生するため、以前より実質の利用料金収入が減少する可能性がある。 ・ 調布総合体育館プールは、競技用として作られたため、施設の性質上、レジャー・幼児の水遊びとしてのニーズは満たしていない。健康増進や泳力のスキルアップを目的とした利用者が多い。	施設名	割引後の施設利用料	既定の施設利用料	総合体育館	入場後 2 時間 30 分までの利用:200 円	2 時間 30 分まで:400 円 1 時間 15 分まで:200 円	入場後 1 時間 15 分までの利用:100 円
	施設名	割引後の施設利用料	既定の施設利用料					
	総合体育館	入場後 2 時間 30 分までの利用:200 円	2 時間 30 分まで:400 円 1 時間 15 分まで:200 円					
入場後 1 時間 15 分までの利用:100 円								
調布市におけるスポーツ振興の立場から市内プール施設に関する問題や課題、市への要望等について	● 未就学児が利用できるプール ・ 総合体育館プールは競技用プールのため、深さがあり、未就学児は利用できないが、未就学児のプール使用に関する問合せは多い。未就学児が利用できるプールについて問合せがあった場合は、市外のプールを勧めている状態である。 ・ 問合せがあることから、未就学児が利用できるプールやじゃぶじゃぶ池のような水に触れあえる場所があると良いのではないかと考える。							

● プールの立地

- ・ 総合体育館プールは、駅からバスで 15 分ほどの距離にある。バスの便数も少ないため、近隣住民以外の利用は難しい。



総合体育館プールまでのアクセス

出典：公益社団法人調布市スポーツ協会 HP

- ・ 立地の影響もあり、総合体育館プールの知名度は低い。以前、期日前投票の会場として施設を開放した際、訪れた市民から、総合体育館プールを初めて知った、という意見をいただいた。

● 学校の水泳授業の受け入れについて

- ・ 現在、学校の水泳授業の受け入れは行っていない。
- ・ 今後、授業のある日を設定し、学校と学校からの移動や指導者について調整を行うことで受け入れは可能であるとする。

調布市民プールの今後の方向性について

方向性① 50m プールを応急改修し、維持・存続

- ・ 応急改修して、プールを再び使用できる期間が限定的であり、今後の方向性として、現実的ではないと考える。

方向性② 屋内プールとして再整備

- ・ 今後の方向性として、屋内プールの再整備が市民の運動できる環境を残せるため、一番良い方法であるとする。
- ・ 市の東西南北に 1 つずつプール施設がある方が市民の健康増進、体力向上を図る上で良いのではないかと考える。

方向性③：市民プールは廃止し、市内の各公営プールに機能を移転

- ・ 市民プールが現在の位置から無くなることで、南部地域の市民がスポーツをする機会が減ることが懸念される。

2) 調布市水泳連盟

調布市総合体育館 プールで行っている プログラムについて	● 調布市水泳連盟の概要 <table border="1"> <tr> <td>団体名</td><td>調布市水泳連盟</td></tr> <tr> <td>創立</td><td>昭和 40 年 4 月</td></tr> <tr> <td>団体数・会員</td><td>団体数:3 会員数:40 名</td></tr> <tr> <td>主な活動</td><td>市民水泳競技大会の大会運営や調布市総合体育館プールで行われている水泳プログラムの講師</td></tr> </table> ● 総合体育館で行っているプログラム ・ 大人の健康増進を目的とした水泳プログラムからジュニアの水泳初心者プログラムまで幅広いプログラムの講師を行っている。	団体名	調布市水泳連盟	創立	昭和 40 年 4 月	団体数・会員	団体数:3 会員数:40 名	主な活動	市民水泳競技大会の大会運営や調布市総合体育館プールで行われている水泳プログラムの講師
団体名	調布市水泳連盟								
創立	昭和 40 年 4 月								
団体数・会員	団体数:3 会員数:40 名								
主な活動	市民水泳競技大会の大会運営や調布市総合体育館プールで行われている水泳プログラムの講師								
新型コロナウイルス感染症拡大前後でのプール施設における利用者の状況の変化について	● 子どもの泳力の変化 ・ 新型コロナウイルス感染拡大により、学校で水泳授業が行われなくなった影響で、コロナ後は子どもの泳力の低下が顕著である。コロナ前のジュニアスイミングプログラムは、上級者と初心者でプログラムを分けていたが、子どもの泳力低下に伴い、初心者プログラムだけに変更した。 ・ 総合体育館プールで行われている初心者ジュニアプログラムは、泳力増強が目的ではなく、子どもの水慣れがメインの目的である。 総合体育館プールで実施されているジュニアスイミングスクールの例 土曜日ジュニアスイミングスクール【令和7年度】 (各期7回／土曜日) <table border="1"> <tr> <td>対 象</td><td>調布市在住・在学の小・中学生</td></tr> <tr> <td>内容 進め方</td><td> 1. 初回時に学年で分かれて、泳力を確認します。 2. 泳力確認後は3グループに分かれて、進めてまいります。 3. 泳力に関わらず、1～2年生は水慣れから始めます。 4. 3年生以上はビート板を使ったバタ足で泳力を確認します。 5. 途中でグループを移動する場合があります。 1グループ ・ 初回時の泳力（目安）：水泳が初めて～水に顔を付けることができる ・ 目標：バタ足で泳げるようになる ・ 練習メニュー 1. 水慣れ（腰かけキック・もぐる） 2. ポビングジャンプ 3. 水中はしり 4. ビート板キック </td></tr> </table> 出典:公益社団法人調布市スポーツ協会 HP ● プール利用者の状況の変化 ・ 多様なスポーツが出来る環境が増えたことや泳ぐことから離れてしまった影響で、プールの利用者数が減少している印象である。 ・ 利用者は減少しているが、コロナ前後でプール利用者の年齢層の変化はない。	対 象	調布市在住・在学の小・中学生	内容 進め方	1. 初回時に学年で分かれて、泳力を確認します。 2. 泳力確認後は3グループに分かれて、進めてまいります。 3. 泳力に関わらず、1～2年生は水慣れから始めます。 4. 3年生以上はビート板を使ったバタ足で泳力を確認します。 5. 途中でグループを移動する場合があります。 1グループ ・ 初回時の泳力（目安）：水泳が初めて～水に顔を付けることができる ・ 目標：バタ足で泳げるようになる ・ 練習メニュー 1. 水慣れ（腰かけキック・もぐる） 2. ポビングジャンプ 3. 水中はしり 4. ビート板キック				
対 象	調布市在住・在学の小・中学生								
内容 進め方	1. 初回時に学年で分かれて、泳力を確認します。 2. 泳力確認後は3グループに分かれて、進めてまいります。 3. 泳力に関わらず、1～2年生は水慣れから始めます。 4. 3年生以上はビート板を使ったバタ足で泳力を確認します。 5. 途中でグループを移動する場合があります。 1グループ ・ 初回時の泳力（目安）：水泳が初めて～水に顔を付けることができる ・ 目標：バタ足で泳げるようになる ・ 練習メニュー 1. 水慣れ（腰かけキック・もぐる） 2. ポビングジャンプ 3. 水中はしり 4. ビート板キック								

	● 水泳の指導者の育成について ・ 少子高齢化が進み、水泳指導者の育成が進んでいない。 ・ 以前は、小学校の先生が水泳授業のために、総合体育館プールの大人のスイミングプログラムを受講していた。しかし、最近では、学校の先生が授業のためにプログラムを受講することはない。 ・ 今後、屋内プールを使用し、本格的に水泳授業を行うのであれば、安全管理や適切な指導の観点から、学校の先生が水泳授業をするのではなく、専門の指導者が授業を行う方が良いと考える。
調布市におけるスポーツ振興の立場から市内プール施設に関する問題や課題、市への要望等について	● 市民のプール利用のニーズを再考する ・ 以前は、子どもたちが夏休みの楽しみの一つとして、屋外プールを利用することが多かったが、近年の猛暑やレジャーの多様化により、敢えて屋外プールに行く人が減っている印象である。 ・ 以前は、水泳連盟主催の水泳大会を屋外プールで行っていたが、猛暑により、屋内プールで実施している状況である。気温と水温の上昇により、熱中症になるリスクが高いため、今後屋外プールを使用した大会の実施は考えていない。 ・ プールのニーズ自体が減ってきている印象である。本当に泳ぎが好きな人は、どんなに遠くても泳ぎたいプールがあれば足を運ぶが、新しい屋内プールを作ったとしても市民の利用者がどれくらいいるのか分からない。 ● 子どもたちに水に対する認識を教える機会が必要 ・ 以前は、学校の水泳授業や夏休みのレジャー等で水に触れる期間が3か月あった。しかし、現在は、かなり少なくなっている。学校授業では、水泳授業を減らす傾向にあるが、競泳以外にも子どもたちに水の怖さや水の認識を教える機会を設けて欲しい。
調布市民プールの今後の方向性について	● 今後の方向性 ・ 屋外プールを改修しても長くは利用できないため、現実的ではない。学校の水泳授業の受け皿やシニア世代の健康増進を目的とした運動施設として屋内プールを新設する方が良いのではないかと考える。

3) 特定非営利活動法人 調和SHC倶楽部

調和小プールで行っているプログラムについて	● 調和 SHC 倶楽部 <table border="1"> <tr> <td>団体名</td><td>NPO 法人 調和 SHC 倶楽部</td></tr> <tr> <td>創設</td><td>平成 14 年 9 月</td></tr> <tr> <td>概要</td><td>東京都調布市立調和小学校地区とその周辺の地域の方々を対象とした「地域総合型スポーツ・文化クラブ」</td></tr> <tr> <td>活動内容</td><td>バトミントン, 卓球, 水泳, 絵画教室などスポーツから文化系まで幅広い分野のクラブの運営と施設管理を行っている。</td></tr> </table> ● 水泳プログラム ・ 大人向けに水中での歩行を目的とした水中歩行プログラム, 子ども向けにプール授業前に水慣れのための水泳教室を実施している。子ども向けの水泳教室は, 水泳授業をはじめる前の準備として人気であり, 募集枠がすぐに埋まってしまう。 ・ プログラム以外にも水泳サークルがあり, サークルメンバーが自分たちで先生を別でお願いし, 運営しているサークルもある。	団体名	NPO 法人 調和 SHC 倶楽部	創設	平成 14 年 9 月	概要	東京都調布市立調和小学校地区とその周辺の地域の方々を対象とした「地域総合型スポーツ・文化クラブ」	活動内容	バトミントン, 卓球, 水泳, 絵画教室などスポーツから文化系まで幅広い分野のクラブの運営と施設管理を行っている。
団体名	NPO 法人 調和 SHC 倶楽部								
創設	平成 14 年 9 月								
概要	東京都調布市立調和小学校地区とその周辺の地域の方々を対象とした「地域総合型スポーツ・文化クラブ」								
活動内容	バトミントン, 卓球, 水泳, 絵画教室などスポーツから文化系まで幅広い分野のクラブの運営と施設管理を行っている。								
新型コロナウイルス感染症拡大前後でのプール施設における利用者の状況の変化について	● 新型コロナウイルスの影響 ・ 新型コロナウイルスの影響で利用者数は減少した。しかし, 屋内プールで湿度が高く感染のリスクが低いため, コロナ禍であっても利用する方が一定数いた。 ● プール利用者の傾向 ・ 調和小プールは駐車場がないため, 施設利用者は, 徒歩または, 自転車で来場している。利用者のほとんどが近隣住民である。 ・ 現状, 調和小プールは, 4校(調和四中, 若葉小, 染地小, 調和小)が6月から9月の9時から16時に水泳授業で利用している。学校授業が行われる6月から9月の間は, 調和小プールでSHC倶楽部は活動をしていない。 ・ 屋内プールであるため, 夏季以外も水泳授業で利用できるが, 現在, 学校のカリキュラム上, 夏季以外は授業を実施していない。 ・ 一般の利用者は学校授業のない夕方または, 土日に利用している。一般の大人の利用者は, 通年利用される方が多く, プール利用をすることで生まれるコミュニティは, シニア世代にとって毎週, 決まった時間に集まれるよい機会になっている。 開館時間 午前9時から午後8時30分まで(最終入場は午後7時30分) (注)学校が授業などで使用する場合は使用できません。 休館日 ・ 毎月第2・4月曜日(ただし, その日が祝日・休日の場合は翌日が休館日) ・ 12月29日から1月3日 (注)臨時休館日もあります。詳細は月間予定表(ダウンロードファイル)をご確認ください。 調和小プールの開館時間 出典:調布市 HP								

調布市におけるスポーツ振興の立場から市内プール施設に関する問題や課題、市への要望等について	● 現状の学校プール施設の活用促進 ・ 現在、市民プールが休止しているため、市民プール周辺の近隣住民が近くで利用できるプール施設がない状態である。プール利用の代替案として、屋外の学校プールを活かして使うことも大事である。日よけ対策や休憩スペースを設ける簡易改修をし、一般市民も利用できるようにする方法もあるのではないかな。
調布市民プールの今後の方向性について	● 今後の方向性 方向性① 50m プールを応急改修し、維持・存続 ・ 応急改修を行ったとしても、今後、猛暑日などで天候による利用制限が増えていくことを考えると、プール運営は難しく、現実的ではないと考える。 方向性② 屋内プールとして再整備 ・ 今後の方向性として、一番現実的な方向性である。費用対効果を考えると屋内は通年利用可能で効果が大きい。 ・ 現在の屋内プールだけでは、学校の水泳授業を受け入れきれないため、屋内プールを再整備する際は、学校授業の受け入れも考慮して、現在ある屋内プール施設から分散させた位置に整備するのがよいのではないかな。 ・ 再整備する場合は、泳力強化や健康増進目的だけでプールを作るのではなく、子どもたちが自由に遊べる場所を併設するのがよいのではないかな。 方向性③ 市民プールは廃止し、市内の各公営プールに機能を移転 ・ 機能移転先として、学校プールが考えられるが、学校プールの老朽化の進行やプールを管理する教職員の負担といった問題の解決になっていないので、現実的には難しいのではないかなと考える。
行政への要望について	● 行政への要望 ・ 猛暑や急な天候変化のリスクや費用対効果、雇用の問題から、屋外から屋内プールへの移行は必須だと考えられる。 ・ 屋内プールを新設する際は、プール施設だけではなく、体育館などの併設施設と一緒に作るというのではないかなと考える。 ・ プール施設利用の際に利用時間を細かく選択出来るようにすることで、利用しやすくなるのではないかな。

(4) 団体ヒアリング調査結果の概要(総括)

1) 屋外プールの利用ニーズの低下, 屋内プールへの利用ニーズの移行

- ヒアリングを行った3団体ともに, 屋外プールの利用ニーズは今後さらに低下していくものとみています。夏の楽しみ方が多様化していることその他, 猛暑による熱中症リスクの高まりや急な天候変化の増加から屋外プールが敬遠される傾向にあること, 健康意識の高まりなどから通年利用できる屋内プールに利用ニーズがシフトしていることが主な理由です。

2) 屋内プールの整備ニーズ

- 調布市民プールの今後の方向について, 50mプールの応急改修による営業再開は, 熱中症リスクが解消されないほか, 改修への投資金額に対する施設の残りの耐用年数, 夏季のみの営業期間などを考えると費用対効果の点からも現実的ではなく, 健康増進やスポーツ振興の観点からも南部エリアの拠点的な屋内プールの整備を目指すことが望ましいと意見をいただいています。
- また, 屋内プールを整備する場合は, 将来的に学校の水泳授業を受け入れる可能性も考慮し, 地域に分散して配置することが必要との意見をいただいています。

3) 身近な地域におけるプール施設の必要性

- 市内の公営プールはちょうど市内の東西南北に配置されています。市民の健康増進や体力向上を図る観点から, 身近なエリアに日常的に利用できるプール施設が必要だとの意見をいただいています。
- 特に熱中症リスクは人命にも関わる喫緊の課題と認識されています。

4) 未就学児が利用できるプールや水遊び場の必要性

- 未就学児が利用できる公営のプール施設は, 市内では調布市民プール(幼児用プール, 変形プール)と調和小学校(幼児用プール)のみであり, 未就学児が利用できるプールやじゃぶじゃぶ池のような水に触れあえる場所があると良いとの意見をいただいています。

調布市民の公営プールに関するアンケート調査等報告書

登録番号(刊行物番号)2025-135

令和7年10月発行

発行:調布市

編集:調布市生活文化スポーツ部スポーツ振興課

〒182-8511 東京都調布市小島町 2-35-1

電話番号:042-481-7496～8

ファクス番号:042-481-6881

メールアドレス:sports@city.chofu.lg.jp